

臨時租稅増徴法

第九條 資本利子税ニ付テハ資本利子税法第六條ニ規定スル稅率百分ノ二ヲ百分ノ四トシタル場合ノ差増額ニ相當スル金額ヲ増徴ス但シ貯蓄銀行ノ所得スル國債ノ利子ニ對スル資本利子税ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第十條 相續税ニ付テハ相續税法第八條第一項ノ規定ニ拘ラズ課稅價格ヲ左ノ各級ニ區分シ相續人ノ種類ニ從ヒ遞次ニ各稅率ヲ適用シテ之ヲ課ス

課稅價格	家督		相續	
	稅	率	稅	率
五千圓以下ノ金額	相續人が被相續人ノ家族タル直系卑屬ナルトキ	千分ノ六	相續人が被相續人ノ指定シタル者ノ民法第九百八十二條ニ依リ選定セラレタル者、被相續人ノ家族タル直系卑屬又ハ入夫ナルトキ	千分ノ七
五千圓ヲ超ユル金額		千分ノ七		千分ノ九
一萬圓ヲ超ユル金額		千分ノ九		千分ノ十二
二萬圓ヲ超ユル金額		千分ノ十二		千分ノ十五
三萬圓ヲ超ユル金額		千分ノ十五		千分ノ二十五
四萬圓ヲ超ユル金額		千分ノ二十五		千分ノ三十五
				千分ノ六十

臨時租稅増徴法

課稅價格	遺產		相續	
	稅	率	稅	率
五萬圓ヲ超ユル金額	相續人が直系卑屬ナルトキ	千分ノ三十五	相續人が配偶者又ハ直系尊屬ナルトキ	千分ノ八十
七萬圓ヲ超ユル金額		千分ノ五十		千分ノ百
十萬圓ヲ超ユル金額		千分ノ六十五		千分ノ百二十
十五萬圓ヲ超ユル金額		千分ノ八十五		千分ノ百四十
二十萬圓ヲ超ユル金額		千分ノ百		千分ノ百六十
三十萬圓ヲ超ユル金額		千分ノ百二十		千分ノ百八十
四十萬圓ヲ超ユル金額		千分ノ百四十		千分ノ二百
五十萬圓ヲ超ユル金額		千分ノ百六十		千分ノ二百二十
七十萬圓ヲ超ユル金額		千分ノ百八十		千分ノ二百四十
百萬圓ヲ超ユル金額		千分ノ二百		千分ノ二百六十
二百萬圓ヲ超ユル金額		千分ノ二百二十		千分ノ二百八十
三百萬圓ヲ超ユル金額		千分ノ二百四十		千分ノ三百
五百萬圓ヲ超ユル金額		千分ノ二百六十		千分ノ三百二十

千圓以下ノ金額	千分ノ十二	千分ノ十四	千分ノ二十
千圓ヲ超ユル金額	千分ノ十四	千分ノ十七	千分ノ二十五
五千圓ヲ超ユル金額	千分ノ十七	千分ノ二十三	千分ノ三十五
一萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ二十三	千分ノ三十	千分ノ五十
二萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ三十	千分ノ四十五	千分ノ七十
三萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ四十五	千分ノ六十	千分ノ九十
四萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ六十	千分ノ八十	千分ノ百十
五萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ八十	千分ノ百	千分ノ百三十
七萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ百	千分ノ百二十	千分ノ百五十
十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ百二十	千分ノ百四十	千分ノ百七十
十五萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ百四十	千分ノ百六十	千分ノ百九十
二十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ百六十	千分ノ百八十	千分ノ二百十
三十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ百八十	千分ノ二百	千分ノ二百三十
四十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ二百	千分ノ二百二十	千分ノ二百五十
五十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ二百三十	千分ノ二百五十	千分ノ二百八十
七十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ二百六十	千分ノ二百八十	千分ノ三百十
百萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ二百九十	千分ノ三百十	千分ノ三百四十
二百萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ三百二十	千分ノ三百四十	千分ノ三百七十

三百萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ三百五十	千分ノ三百七十	千分ノ四百
五百萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ三百八十	千分ノ四百	千分ノ四百三十

第十一條 相續稅ヲ課スベキ相續財產ノ價額中不動産及不動産ノ上ニ存スル權利並ニ信託財產タル不動産ノ

元本ノ利益ヲ受クベキ權利ノ價額ノ合計ガ相續財產ノ價額ノ二分ノ一ヲ超ユルトキハ相續稅法第十七條第

一項但書ノ期間ハ之ヲ十年内トス

第十二條 釀產稅ニ付テハ釀業法第八十五條ニ規定スル稅率千分ノ五ヲ千分ノ六トシタル場合ノ差増額ニ相

當スル稅額ヲ増徴ス

第十三條 金銀及銀鍍ニハ釀產物ノ價格ノ千分ノ十三ノ稅率ニ依リ特別釀產稅ヲ課ス

釀業法中釀產稅ニ關スル規定ハ第八十八條ノ規定ヲ除クノ外前項ノ特別釀產稅ニ付之ヲ準用ス

第十四條 酒稅中清酒、白酒、味淋及燒酎ノ造石稅ハ酒造稅法第四條ノ規定ニ拘ラズ左ノ稅率ニ依ル

一 酒精分二十三度以下ノ清酒及白酒並ニ酒精分三十度以不ノ味淋及燒酎

一石ニ付 四十五圓但シ連續式蒸餾機ニ依リ製造シタル燒酎ニ付テハ一石ニ付二圓ヲ加

ヘタル金額

二 酒精分三十度ヲ超エ四十五度以下ノ燒酎

一石ニ付 四十五圓ニ酒精分三十度ヲ超ユル一度毎ニ一圓七十錢ヲ加ヘタル金額但シ連

續式蒸餾機ニ依リ製造シタルモノニ付テハ四十七圓ニ酒精分三十度ヲ超ユル

臨時租稅增徴法

三 酒精分二十三度ヲ超ユル清酒及白酒、酒精分三十度ヲ超ユル味淋並ニ酒精分四十五度ヲ超ユル焼酎
一石ニ付 酒精分一度毎ニ二圓十五錢

第十五條 酒稅中麥酒稅ニ付テハ麥酒稅法第三條ニ規定スル稅率一石ニ付二十五圓ヲ三十五圓トシタル場合
ノ差増額ニ相當スル稅額ヲ增徴ス

第十六條 酒稅中酒精及酒精ヲ含有スル飲料ノ造石稅ニ付テハ酒精及酒精含有飲料稅法第二條ニ規定スル稅
率中一圓八十錢ヲ二圓十五錢、四十二圓ヲ五十圓トシタル場合ノ差増額ニ相當スル稅額ヲ增徴ス

第十七條 砂糖消費稅ハ砂糖消費稅法第三條ノ規定ニ拘ラズ左ノ稅率ニ依ル

一 砂糖

第一種 砂糖色相和蘭標本第十一號未滿ノ砂糖

甲 樽入黒砂糖及樽入白下糖但シ分蜜シタルモノ、黒糖及白下糖以外ノ砂糖ニ加工シテ製造シタルモ
ノ並ニ全部又ハ一部ノ新式機械ニ依リ製造シケルモノヲ除ク

百斤ニ付

一圓

乙 其ノ他ノモノ

百斤ニ付

二圓七十錢

第二種 砂糖色相和蘭標本第二十二號未滿ノ砂糖

百斤ニ付

六圓五十錢

第三種 砂糖色相和蘭標本第二十二號以上ノ砂糖

第四種 氷砂糖、角砂糖、轉砂糖其ノ他類似ノモノ
百斤ニ付 八圓
百斤ニ付 十圓

二 糖蜜

第一種 氷砂糖ヲ製造スルトキニ生ズル糖蜜

甲 糖分ヲ蔗糖トシテ計算シタル重量全重量ノ百分ノ七十ヲ超エザルモノ
百斤ニ付 三圓五十錢

乙 其ノ他ノモノ
糖分ヲ蔗糖トシテ計算シタル重量
百斤ニ付 八圓

第二種 其ノ他ノ糖蜜

甲 糖分ヲ蔗糖トシテ計算シタル重量全重量ノ百分ノ六十ヲ超エザルモノ
百斤ニ付 一圓

乙 其ノ他ノモノ
百斤ニ付 二圓七十錢

三 糖水

百斤ニ付

六圓五十錢

第十八條 取引所稅ニ付テハ左ノ各號ニ定ムル稅額ヲ增徴ス
一 取引所營業稅ニ付テハ取引所稅法第一條ニ規定スル稅率百分ノ十五ヲ百分ノ十六・五トシタル場合ノ
差増額ニ相當スル稅額

臨時租稅增徴法

三八四

二 第二種有價證券ノ賣買取引ニ對スル取引税ニ付テハ取引所稅法第五條ニ規定スル稅率萬分ノ一・五ヲ萬分ノ二・七、萬ノ二・五ヲ萬分ノ四・五トシタル場合ノ差増額ニ相當スル稅額

第十九條 臨時利得稅ニ付テハ臨時利得稅法第十四條ニ規定スル稅率百分ノ十ヲ百分ノ十五、百分ノ八ヲ百分ノ十トシタル場合ノ差増額ニ相當スル稅額ヲ增徴ス

第二十條 北海道、府縣、市町村其ノ他ノ公共團體ハ本法ニ依リ增徴スル稅額(第七條及第二十二條ノ規定ニ依リ增額ト爲ル部分ヲ含マズ)又ハ本法ニ依リ課スル特別釐產稅ニ付附加稅ヲ課スルコトヲ得ズ

附 則

第二十一條 本法ハ昭和十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二十二條 左ノ法律ハ之ヲ廢止ス

一 明治三十八年法律第十九號

一 明治四十二年法律第七號

第二十三條 所得稅中第一種ノ所得稅ニ付テハ普通所得ニ對スル所得稅ハ本法施行後ニ終了スル事業年度分清算所得ニ對スル所得稅ハ本法施行後ニ於ケル解散又ハ合併ニ因ル分ヨリ、第三種ノ所得稅ニ付テハ昭和十二年分ヨリ本法ヲ適用ス

第七條ノ規定ニ依リ第三種ノ所得ニ付新ニ納稅義務ヲ有スルニ至リタル者ハ昭和十二年四月十五日迄ニ其ノ所得金額ヲ申告スベシ

前項ノ場合ニ於テハ所得金額ノ申告ト同時ニ所得稅法第十六條又ハ第十六條ノ三ノ規定ニ依リ控除ヲ申請スルコトヲ得

第二十四條 法人ノ營業收益稅ニ付テハ本法施行後ニ終了スル事業年度分ヨリ本法ヲ適用ス

第二十五條 資本金子稅中乙種ノ資本金子稅ニ付テハ昭和十二年分ヨリ本法ヲ適用ス

第二十三條第二項ノ規定ハ乙種ノ資本金子稅ニ付テハ準用ス

第二十六條 本法施行前ニ開始シタル相續ニ付テハ本法ヲ適用セズ

第二十七條 釐產稅ニ付テハ昭和十二年分ヨリ本法ヲ適用ス

第二十八條 本法施行前ニ產出シタル金銀及銀鍍ニハ本法ヲ適用セズ

第二十九條 沖繩縣ニ於テ製造シタル濁酒以外ノ酒類ヲ帝國内ノ他ノ地方へ移出スルトキハ大正十五年法律

第十四號附則第三項ノ規定ニ拘ラズ其ノ造石稅ト第十四條ニ規定スル造石稅トノ差額ノ稅率ニ依リ出港稅ヲ課ス

第三十條 臨時利得稅ニ付テハ法人ノ臨時利得稅ハ本法施行後ニ終了スル事業年度分ヨリ、個人ノ臨時利得稅ハ昭和十二年分ヨリ本法ヲ適用ス

第三十一條 臨時利得稅法附則第二項中「昭和十二年十二月三十一日」ヲ「昭和十三年十二月三十一日」ニ、「昭和十二年分」ヲ「昭和十三年分」ニ改ム

第三十二條 大正九年法律第十二號第三條ノ二乃至第六條中「臺灣」ノ下ニ「關東州」ヲ、第八條乃至第十條中「朝鮮」ノ下ニ「臺灣又ハ樺太」ヲ加フ

臨時租稅增徴法

三八五

附 則 (昭和十三年法律第四十二號)

本法ハ昭和十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三種ノ所得稅ニ付テハ昭和十三年分ヨリ本法ヲ適用ス

本法施行前開始シタル相續ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

(參照) 昭和十三年法律第四十五號臨時利得稅法中改正法附則抄錄

第三條 臨時租稅增徴法第十九條ノ規定ハ昭和十三年一月一日以後ニ終了スル法人ノ各事業年度分ノ臨時利得稅及昭和十三年分以降ノ個人ノ臨時利得稅ニ付テハ之ヲ適用セズ

支那事變特別稅法

(昭和十三年三月三十一日) (法律第五十一號)

第一條 當分ノ内本法ニ依リ所得稅、法人資本稅、砂糖消費稅及取引所稅ヲ增徴シ利益配當稅、公債及社債利子稅、通行稅、入場稅、特別入場稅及物品稅ヲ課ス

第二條 所得稅中法人ノ普通所得及清算所得ニ對スル所得稅ニ付テハ臨時租稅增徴法第二條ノ規定ニ拘ラズ所得稅法第二十一條ニ規定スル稅率百分ノ五ヲ百分ノ十二・五、百分ノ十ヲ百分ノ二十二・五トシタル場合ノ差増額ニ相當スル稅額ヲ增徴ス

所得稅中法人ノ超過所得ニ對スル所得稅ニ付テハ同法第二十一條ニ規定スル稅率ヲ以テ算出シタル稅額ノ百分ノ十二ニ相當スル稅額ヲ增徴ス

前二項ノ規定ニ依ル普通所得及超過所得ニ對スル所得稅ノ增徴稅額ハ普通所得ノ百分ノ五十二ニ相當スル金額ヨリ普通所得及超過所得ニ對スル所得稅額(所得稅法第二十一條ノ二ノ規定ニ依リ普通所得ニ對スル所得稅ニ加算スル稅額ヲ含マズ)ト臨時利得稅額トノ合計金額ヲ控除シタル殘額ヲ超ユルコトヲ得ズ

第三條 所得稅中同族會社ノ普通所得ニ對スル所得稅ニ加算スル稅額ニ付テハ臨時租稅增徴法第四條ノ規定ニ拘ラズ所得稅法第二十一條ノ二ノ規定ニ依リ算出シタル稅額ノ百分ノ八十三・七五ニ相當スル稅額ヲ增徴ス

同族會社ノ普通所得ニ對スル所得稅ニ加算スル稅額ハ普通所得ノ百分ノ六十二ニ相當スル金額ヨリ普通所得

支那事變特別稅法

支那事變特別税法

及超過所得ニ對スル所得税額(所得税法第二十一條ノ二ノ規定ニ依リ普通所得ニ對スル所得税ニ加算スル税額ヲ含マズ)、臨時利得税額及前條ノ規定ニ依ル増徴税額ノ合計金額ヲ控除シタル残額ヲ超ユルコトヲ得ズ残額ヲ超エザル場合ニ於テ前項ノ規定ニ依ル増徴ニ因リ之ヲ超ユルニ至ルトキハ其ノ増徴税額ニ付亦同

第四條 所得税中第二種甲及乙ノ所得ニ對スル所得税ニ付テハ所得税法第二十二條第一項及臨時租税増徴法第五條ノ規定ニ拘ラズ左ノ税率ニ依リ之ヲ賦課ス

甲

國債ノ利子

利率年四分以下ノモノ

百分ノ二

利率年四分ヲ超ユルモノ

百分ノ二・五

國債以外ノ公債ノ利子

利率年四分五厘以下ノモノ

百分ノ六・五

利率年四分五厘ヲ超ユルモノ

百分ノ七・五

社債ノ利子

利率年四分五厘以下ノモノ

百分ノ八

利率年四分五厘ヲ超ユルモノ

百分ノ九・五

其ノ他

百分ノ八

乙

百分ノ十二・五

第五條 所得税中第三種ノ所得ニ對スル所得税ニ付テハ所得税額ノ百分ノ二十二・五ニ相當スル税額ヲ増徴ス

前項ノ規定ニ依ル増徴税額ハ第三種所得ノ百分ノ五十五ニ相當スル金額ヨリ第三種ノ所得ニ對スル所得税額ヲ控除シタル残額ヲ超ユルコトヲ得ズ

第六條 所得税法第二十條ノ規定ニ拘ラズ第三種ノ所得千圓以上ナルトキハ所得税ヲ課ス

前項ノ所得ハ所得税法第十五條、第十六條及第十六條ノ三ノ規定ニ依ル控除ヲ爲シタル残額ニ依リ、戸主及其ノ同居家族ノ所得又ハ戸主ト別居スル二人以上ノ同居家族ノ所得ハ其ノ合算總額ニ依ル前條ノ規定ハ第一項ノ規定ニ依リ課セラルル所得税ニ付テハ之ヲ適用セズ

第七條 第三種ノ所得ニ付テハ金額決定後翌年所得金額決定前ニ於テ營業ヲ法人ニ繼續セシメタル者ノ當該營業ノ實際所得ガ決定所得額ヲ超過スルトキハ其ノ超過額ハ之ヲ所得金額ノ決定ニ付脱漏アリタルモノト看做シ翌年ニ於ケル所得調査委員會ノ調査ニ依リ政府ニ於テ其ノ所得金額ヲ決定スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ當該營業ノ實際所得額ハ其ノ年ニ於ケル収入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタル金額ニ依ル

第八條 法人資本税ニ付テハ法人資本税法第八條第一項ニ規定スル税率千分ノ一ヲ千分ノ一・二トシタル場合ノ差増額ニ相當スル税額ヲ増徴ス

第九條 砂糖消費税ハ砂糖消費税法第三條及臨時租税増徴法第十七條ノ規定ニ拘ラズ左ノ税率ニ依ル

支那事變特別税法

一 砂糖

第一種 砂糖色相和蘭標本第十一號未滿ノ砂糖

甲 樽入黒糖及樽入白下糖但シ分蜜シタルモノ、黒糖及白下糖以外ノ砂糖ニ加工シテ製造シタルモノ
竝ニ全部又ハ一部ノ新式機械ニ依リ製造シタルモノヲ除ク

百斤ニ付

一圓二十錢

乙 其ノ他ノモノ

百斤ニ付

三圓三十錢

第二種 砂糖色相和蘭標本第二十二號未滿ノ砂糖

百斤ニ付

七圓十錢

第三種 砂糖色相和蘭標本第二十二號以上ノ砂糖

百斤ニ付

八圓六十錢

第四種 氷砂糖、角砂糖、棒砂糖其ノ他類似ノモノ

百斤ニ付

十一圓

二 糖蜜

第一種 氷砂糖ヲ製造スルトキニ生ズル糖蜜

甲 糖分ヲ蔗糖トシテ計算シタル重量全重量ノ百分ノ七十ヲ超エザルモノ

百斤ニ付

三圓九十錢

乙 其ノ他ノモノ

糖分ヲ蔗糖トシテ計算シタル重量

百斤ニ付

八圓六十錢

第二種 其ノ他ノ糖蜜

甲 糖分ヲ蔗糖トシテ計算シタル重量全重量ノ百分ノ六十ヲ超エザルモノ

百斤ニ付

一圓二十錢

乙 其ノ他ノモノ

百斤ニ付

三圓三十錢

三 糖水

百斤ニ付

七圓十錢

第十條 砂糖消費税ニ付徴收ヲ猶豫シ得ル期間ハ砂糖消費税法第四條第一項但書ノ規定ニ拘ラズ之ヲ三月内トス

第十一條 取引所税中第二種有價證券ノ賣買取引ニ對スル取引税ニ付テハ臨時租税増徴法第十八條第二號ノ規定ニ拘ラズ取引所税法第五條ニ規定スル税率萬分ノ一・五ヲ萬分ノ四、萬分ノ二・五ヲ萬分ノ六トシタル場合ノ差増額ニ相當スル税額ヲ増徴ス

第十二條 利益配當税ハ本法施行地ニ本店ヲ有スル法人ヨリ利益ノ配當ヲ受クル者ニ之ヲ課ス所得税法其ノ他ノ法律ニ依リ第二種所得税ヲ課セラレザル者ニハ利益配當税ヲ課セズ

第十三條 利益配當税ハ前條ノ法人ヨリ支拂ヲ受クル利益ノ配當ニ付之ヲ賦課シ配當金中配當率年七分ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユル金額ノ百分ノ十二ニ相當スル金額ヲ以テ其ノ税額トス

第十四條 利益配當税ハ配當額支拂ノ際支拂者ニ於テ徴收シ翌月十日迄ニ之ヲ政府ニ納ムベシ

第十五條 公債及社債利子税ハ本法施行地ニ於テ公債又ハ社債ノ利子ノ支拂ヲ受クル者ニ之ヲ課ス

支那事變特別税法

支那事變特別税法

三九二

所得税法其ノ他ノ法律ニ依リ第二種所得税ヲ課セラレザル者ニハ公債及社債利子税ヲ課セズ
第十六條 公債及社債利子税ハ本法施行地ニ於テ支拂ヲ受クル公債又ハ社債(外貨債特別税法第一條第二項ニ規定スル外貨債ヲ除ク)ノ利子ニ付之ヲ賦課シ利子金額中國債ニ在リテハ利率年四分、國債以外ノ公債及社債ニ在リテハ利率年四分五厘ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユル金額ノ百分ノ十二相當スル金額ヲ以テ其ノ税額トス

第十七條 公債及社債利子税ハ利子金額支拂ノ際支拂者ニ於テ徵收シ翌月十日迄ニ之ヲ政府ニ納ムベシ

第十八條 利益配當税ヲ課セラルル利益ノ配當又ハ公債及社債利子税ヲ課セラルル公債又ハ社債ノ利子ニ付所得税(第一種所得税ヲ除ク)又ハ資本利子税ヲ課スル場合ニ於テハ其ノ利益配當金額又ハ利子金額ヨリ利益配當税又ハ公債及社債利子税相當額ヲ控除シタル殘額ヲ以テ其ノ配當金額又ハ利子金額ト看做ス

第十九條 通行税ハ汽車、電車、乗合自動車及汽船ノ乗客ニ左ノ區別ニ依リ之ヲ課ス

五十杆未満	一等	六錢
	二等	三錢
五十杆以上	一等	十錢
	二等	五錢
	三等	二錢

百杆以上	一等	三十錢
	二等	十五錢
	三等	五錢
百五十杆以上	一等	六十錢
	二等	三十錢
	三等	十錢
三百杆以上	一等	一圓二十錢
	二等	六十錢
	三等	二十錢
五百杆以上	一等	一圓八十錢
	二等	九十錢
	三等	三十錢
八百杆以上		

支那事變特別税法

三九三

支那事變特別税法

- 一等 二圓四十錢
 - 二等 一圓二十錢
 - 三等 四十錢
- 回数乗車船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ通行税ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ課ス
- 回数二十回以下ナルトキ 前項税額ノ五倍
 - 回数五十回以下ナルトキ 前項税額ノ十倍
 - 回数五十回ヲ超ユルトキ 前項税額ノ二十倍
- 定期乗車船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ通行税ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ課ス
- 契約期間一月内ナルトキ 第一項税額ノ五倍
 - 契約期間三月内ナルトキ 第一項税額ノ十倍
 - 契約期間六月内ナルトキ 第一項税額ノ二十倍
 - 契約期間六月ヲ超ユルトキ 第一項税額ノ三十倍
- 團體乗車船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ通行税ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ課ス
- 人員百人以下ナルトキ 第一項税額ノ五倍
 - 人員二百人以下ナルトキ 第一項税額ノ十倍
 - 人員二百人ヲ超ユルトキ 第一項税額ノ二十倍
- 貸切乗車船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ通行税ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ課ス
- 第一項税額ノ二十倍

- 一等及二等 貸切運賃ノ百分ノ十
 - 三等 貸切運賃ノ百分ノ五
- 前項ノ規定ニ依ル税額ハ第一項税額ニ乗客定員數ヲ減シタル金額ヲ超ユルコトヲ得ズ
- 第一項乃至第三項ニ規定スル通行税ハ十二歳未満ノ乗客ニ付テハ其ノ半額トス
- 第二十條 左ノ場合ニ於テハ通行税ヲ課セズ
- 一 三等乗客ニシテ其ノ乗車船區間五十軒未満ナルトキ
 - 二 陸海軍ノ團體トシテノ乗車船ニシテ命令ノ定ムルモノナルトキ
 - 三 陸海軍ノ團體トシテノ乗車船ニシテ命令ノ定ムルモノナルトキ
- 第二十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ第十九條第一項及前條第一號ノ乗車船區間ノ杆程ノ計算ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
- 一 往復乗車船又ハ廻遊乗車船ノ契約ヲ爲シタルトキ
 - 二 運賃ガ均一制又ハ區間制ニ依リ定メラレタルトキ
- 第二十二條 汽車、電車、乗合自動車又ハ汽船ニシテ其ノ等級ヲ一等、二等及三等ニ分タザルモノニ付テハ第十九條第一項、第五項及第二十條第一號ノ等級ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム乗客定員數ノ定ナキ車船ニ付貸切乗車船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於ケル第十條第六項ノ乗客定員數ニ付亦同シ
- 第二十三條 通行税ハ汽車、電車、乗合自動車又ハ汽船ニ依ル運輸業ヲ營ム者（以下運輸業者ト稱ス）運賃領收ノ際之ヲ徴收シ翌月十日迄ニ政府ニ納ムベシ
- 特別ノ事情アル運輸業者ニ付テハ前項ノ納期限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

支那事變特別税法

第二十四條 汽車、電車、乗合自動車又ハ汽船ニ依ル運輸業ヲ營メントスル者及運輸業者ニ代リテ乗車船券ヲ販賣セントスル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ旨ヲ豫メ政府ニ申告スベシ之ヲ廢止セントストキ亦同シ

第二十五條 運輸業者又ハ運輸業者ニ代リテ乗車船券ヲ販賣スル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ業務ニ關スル事項ヲ帳簿ニ記載スベシ

運輸業者又ハ運輸業者ニ代リテ乗車船券ヲ販賣スル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ業務ニ關シ必要ナル事項ヲ政府ニ申告スベシ

第二十六條 入場税ハ左ニ掲グル第一種ノ場所ニ入場スル者又ハ第二種ノ場所ノ設備ヲ利用スル者ニ之ヲ課ス

第一種

一 演劇、活動寫眞、演藝又ハ觀物（相撲、野球、拳闘其ノ他ノ競技ニシテ公衆ノ觀覽ニ供スルコトヲ目的トスルモノヲ含ム）ヲ催ス場所

二 競馬場

三 前二號ニ掲グルモノヲ除クノ外一定ノ催物又ハ設備ヲ爲シ公衆ノ觀覽又ハ遊戯ニ供スル場所ニシテ命令ヲ以テ定ムルモノ

第二種

一 舞踏場、麻雀場、撞球場

二 ゴルフ場、スケート場

第二十七條 入場税ハ入場料ノ百分ノ十トス

本法ニ於テ入場料トハ名義ノ何タルヲ問ハズ第一種ノ場所ニ入場シ又ハ第二種ノ場所ノ設備ヲ利用スル爲ニ支拂フベキ金額ヲ謂フ

前項ノ入場料ノ算定ニ關シテハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十八條 第一種ノ場所ノ入場料ガ一人一回二十三錢ニ滿タザル場合ニハ入場税ヲ課セズ

前項ノ規定ハ回数、定期又ハ貸切ニテ入場ノ契約ヲ爲シタル場合ニハ之ヲ適用セズ

第二十九條 第一種ノ催物（第一種ノ場所ニ於ケル演劇、活動寫眞、演藝、觀物、競馬其ノ他ノ催物ヲ謂フ以下同シ）若ハ設備ノ主催者若ハ經營者又ハ第二種ノ場所ノ經營者ガ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ入場料又ハ収益ノ總額ヲ慈善事業其ノ他命令ヲ以テ定ムル目的ニ充ツル場合ニ於テハ入場税ヲ免除ス

第三十條 入場税ハ第一種ノ催物若ハ設備ノ主催者若ハ經營者又ハ第二種ノ場所ノ經營者入場料領收ノ際之ヲ徵收シ翌月十日迄ニ政府ニ納ムベシ但シ常時開設ニ非ザルモノニ付テハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外終了後直ニ政府ニ納ムベシ

第三十一條 第一種ノ催物若ハ設備ヲ開催若ハ經營シ又ハ第二種ノ場所ヲ經營セントスル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ旨ヲ豫メ政府ニ申告スベシ之ヲ廢止セントストキ亦同シ

第三十二條 第一種ノ催物若ハ設備ノ主催者若ハ經營者又ハ第二種ノ場所ノ經營者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ業務ニ關スル事項ヲ帳簿ニ記載スベシ

第一種ノ催物若ハ設備ノ主催者若ハ經營者又ハ第二種ノ場所ノ經營者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ業務ニ關シ必要ナル事項ヲ政府ニ申告スベシ

第三十三條 特別入場税ハ運動競技ニシテ學生生徒又ハ該競技ヲ爲スコトヲ業トセザル者ノ行フモノニ付觀覽ノ爲競技場ニ入場スル者ヨリ料金ヲ徵スル場合ニ於テ其ノ入場者ニ之ヲ課ス

第三十四條 特別入場税ハ特別入場料ノ百分ノ十トス

本法ニ於テ特別入場料トハ名義ノ何タルヲ問ハズ前場ノ競技場ニ入場スル爲ニ支拂フべき金額ヲ謂フ

第二十七條 第三項ノ規定ハ特別入場税ニ付之ヲ準用ス

第三十五條 特別入場料ガ一人一回二十三錢ニ滿タザル場合ニハ特別入場税ヲ課セズ

第二十八條 第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ付之ヲ準用ス

第三十六條 特別入場税ハ運動競技ノ主催者特別入場料領收ノ際之ヲ徵收シ競技終了後直ニ政府ニ納ムベシ但シ命令ヲ以テ定ムル場合ニ於テハ翌月十日迄ニ之ヲ政府ニ納ムベシ

第三十七條 第二十九條、第三十一條及第三十二條ノ規定ハ特別入場税ニ付之ヲ準用ス

第三十八條 物品税ハ左ニ掲グル物品ニシテ命令ヲ以テ定ムルモノニ之ヲ課ス

第一種

甲類

- 一 貴石若ハ半貴石又ハ之ヲ用ヒタル製品
- 二 眞珠又ハ眞珠ヲ用ヒタル製品

三 貴金屬製品又ハ金若ハ白金ヲ用ヒタル製品

四 藍甲製品

五 珊瑚製品

乙類

六 時計

七 萬年筆、金ペン及シヤープペンシル

八 身邊用細貨類

九 化粧用具

十 喫煙用具

十一 帽子、杖、鞭及傘

十二 皮革製又ハ金屬製ノ靴及トランク

十三 靴及履物

十四 書畫及骨董

十五 室内裝飾用品

十六 照明器具

十七 圍碁及將棋用具

十八 家具

支那事變特別税法

支那事變特別税法

- 十九 漆器、陶磁器及硝子製器具ニシテ別號ニ掲ゲザルモノ
- 二十 貴金屬ヲ鍍シ又ハ張りタル製品ニシテ別號ニ掲ゲザルモノ
- 二十一 毛皮又ハ毛皮製品
- 二十二 羽毛製品又ハ羽毛ヲ用ヒタル製品
- 二十三 皮革製品ニシテ別號ニ掲ゲザルモノ
- 二十四 メリヤス、レース、フェルト及同製品

第二種

甲類

- 一 寫真機、寫真引伸機、映寫機、同部分品及附屬品
- 二 寫真用ノ乾板、フィルム及感光紙
- 三 蓄音器及同部分品
- 四 蓄音器用レコード
- 五 樂器、同部分品及附屬品
- 六 雙眼鏡及雙眼鏡
- 七 銃及同部分品
- 八 藥莖及彈丸
- 九 ゴルフ用具、同部分品及附屬品

- 十 娛樂用ノモーターボート、スケール及ヨット
- 十一 撞球用具
- 十二 ネオン管及同變壓器
- 十三 喫煙用ライター

乙類

- 十四 ラジオ聴取機及同部分品
- 十五 受信用真空管及擴聲器
- 十六 扇風機及同部分品
- 十七 暖房用ノ電氣、瓦斯又ハ礦油ストーブ
- 十八 冷蔵庫及同部分品
- 十九 金庫及鋼鐵製家具
- 二十 乗用自動車
- 二十一 化粧品

第三種

一 樽寸

- 二 酒類但シ濁酒及果實酒（酒精及酒精含有飲料税法第三條ノ三ニ規定スルモノ）ヲ除ク
同一物品ニシテ第一種及第二種ニ該當スルモノハ之ヲ第二種トシ、甲類及乙類ニ該當スルモノハ之ヲ甲

支那事變特別税法

類トス

第三十九條 物品税ノ稅率左ノ如シ

第一種

甲類

物品ノ價格百分ノ十五

乙類

物品ノ價格百分ノ十

第二種

甲類

物品ノ價格百分ノ十五

乙類

物品ノ價格百分ノ十

第三種

一 罇寸

千本ニ付

五錢

二 酒類

イ 清酒、白酒、味淋、燒酎及麥酒

一石ニ付

五圓

ロ 葡萄酒（酒精及酒精含有飲料稅法第三條ノ二ニ規定スルモノ以下同シ）

一石ニ付

十圓

ハ 其ノ他ノ酒類ニシテ酒精及酒精含有飲料稅法ノ適用ヲ受ケルモノ

一石ニ付

七圓

第四十條

前條ノ價格ハ第一種ノ物品ニ付テハ小賣業者ノ販賣價格、第二種ノ物品ニ付テハ製造場ヨリ移出スル時ノ價格トス但シ保稅地域ヨリ引取ラレル第一種又ハ第二種ノ物品ニシテ引取人ヨリ税金ヲ徵收スルモノニ付テハ引取ノ際ニ於ケル價格トス

前項ノ價格及罇寸ノ本數ノ計算ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十一條

物品税ハ第一種ノ物品ニ付テハ販賣セラレタル物品ノ價格ニ應ジ小賣業者ヨリ、第二種又ハ第三種ノ物品ニ付テハ製造場ヨリ移出セラレタル物品ノ價格又ハ數量ニ應ジ製造者ヨリ之ヲ徵收ス但シ保稅地域ヨリ引取ラレル物品ニ付テハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外引取ラレタル物品ノ價格又ハ數量ニ應ジ引取人ヨリ之ヲ徵收ス

第四十二條

物品税ハ第一種第十四號ニ掲グル物品ニ付テハ其ノ物品ガ入札其ノ他競争ノ方法ニ依リ賣買セラルル場合ニシテ命令ヲ以テ定ムル場合ニ限リ之ヲ課ス

前項ノ場合ニ於テハ其ノ札元又ハ之ニ準ズベキ者ガ小賣業者トシテ當該物品ヲ販賣スルモノト看做ス

第四十三條

製造場以外ノ場所ニ於テ販賣ノ爲化粧品ヲ容器ニ充填シ又ハ改装スルトキハ之ヲ化粧品ノ製造ト看做ス

第四十四條

酒類ヲ製造場内ニ於テ飲用シタルトキハ之ヲ製造場ヨリ移出シタルモノト看做ス

第四十五條

第一種ノ物品ノ小賣業者ハ毎月其ノ販賣シタル物品ニ付其ノ品名毎ニ數量及價格ヲ記載シタル申告書ヲ、第二種ノ物品ノ製造者ハ毎月其ノ製造場ヨリ移出シタル物品ニ付其ノ品名毎ニ數量及價格ヲ記載シタル申告書ヲ、第三種ノ物品ノ製造者ハ毎月其ノ製造場ヨリ移出シタル物品ニ付其ノ品名毎ニ數量ヲ

支那事變特別税法

記載シタル申告書ヲ翌月十日迄ニ政府ニ提出スベシ

第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ヲ保税地域ヨリ引取ル者ハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外引取ノ際其ノ物品ニ付前項ニ準ズル申告書ヲ政府ニ提出スベシ

申告書ノ提出ナキトキ又ハ政府ニ於テ申告ヲ不相当ト認メタルトキハ政府ハ其ノ課税標準額ヲ決定ス

第四十六條 小賣業者ガ其ノ販賣シタル第一種ノ物品ノ返還ヲ受ケタル場合ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ返還ヲ受ケタル月分以降ノ課税標準額ヨリ其ノ物品ノ價格ヲ控除ス製造場ヨリ移出シタル第二種ノ物品ヲ同一製造場内ニ戻入シタル場合亦同シ

製造場ヨリ移出シタル第三種ノ物品ヲ同一製造場内ニ戻入シ又ハ酒類ヲ製造場外ヨリ移入シタル場合ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ物品ヲ製造場ヨリ移出スルモ更ニ物品税ノ徵收ヲ爲サズ

第四十七條 物品税ハ毎月分ヲ翌月末日迄ニ納付スベシ但シ第四十一條但書ノ場合ニ於テハ引取ノ際之ヲ納付スベシ

命令ノ定ムル所ニ依リ第二種又ハ第三種ノ物品ニ付物品税額ニ相當スル擔保ヲ提供シタルトキハ一月内物品税ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

第四十八條 命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ承認ヲ受ケ他ノ製造場又ハ藏置場ニ移入スル目的ヲ以テ製造場ヨリ移出シ又ハ保税地域ヨリ引取ル第二種ノ物品又ハ燐寸ニ付テハ第四十一條ノ規定ヲ適用セズ
前項ノ場合ニ於テハ移出先又ハ引取先ヲ以テ製造場ト看做シ移出先又ハ引取先ノ營業者ヲ以テ製造者ト看做ス

第一項ノ物品ニシテ政府ノ指定シタル期間内ニ移出先又ハ引取先ニ移入セラレタルコトノ證明ナキモノニ付テハ製造者又ハ引取人ヨリ直ニ其ノ物品税ヲ徵收ス但シ災害其ノ他已ムコトヲ得ザル事由ニ因リ滅失シタルモノニ付政府ノ承認ヲ受ケタルトキハ物品税ヲ免除ス

第四十九條 命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ承認ヲ受ケ製造場ヨリ移出シ又ハ保税地域ヨリ引取ル物品ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニ付テハ物品税ヲ免除ス

- 一 第二種ノ物品ノ製造ノ用ニ供スル第二種ノ物品
- 二 酒類製造ノ用ニ供スル葡萄酒

前條第三項ノ規定ハ前項ノ物品ニシテ政府ノ指定シタル期間内ニ移出先若ハ引取先ニ移入セラレタルコトノ證明ナキモノ又ハ其ノ用途ヲ變更セラレタルモノニ付之ヲ準用ス

第五十條 左ニ掲グル物品ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ物品税ヲ免除ス

- 一 輸出スルモノ
- 二 學術研究用ニ供スルモノ
- 三 其ノ他命令ヲ以テ定ムル用途ニ供スルモノ

第四十八條第三項ノ規定ハ前項ノ物品ニシテ政府ノ指定シタル期間内ニ輸出シ又ハ其ノ用途ニ供セラレタルコトノ證明ナキモノニ付之ヲ準用ス

第五十一條 第一種ノ物品ノ小賣業ヲ營メントスル者又ハ第二種ノ物品若ハ燐寸ヲ製造セントスル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ニ申告スベシ其ノ小賣業者製造ヲ廢止セントスルトキ亦同シ

第五十二條 第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ製造者又ハ販賣者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ製造、貯藏又ハ販賣ニ關スル事實ヲ帳簿ニ記載スベシ

第一種ノ物品ノ小賣業者又ハ第二種若ハ第三種ノ物品ノ製造者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ製造又ハ販賣ニ關シ必要ナル事項ヲ政府ニ申告スベシ

第五十三條 第十四條、第十七條、第二十三條、第三十條又ハ第三十六條ノ規定ニ依リ徵收スベキ税金ヲ徵收セザルトキ又ハ其ノ徵收シタル税金ヲ納付セザルトキハ國稅徵收ノ例ニ依リ之ヲ各其ノ徵收義務者ヨリ徵收ス

第五十四條 收稅官吏ハ通行稅ニ付運輸業者又ハ運輸業者ニ代リテ乘車船券ヲ販賣スル者ニ對シ質問ヲ爲シ又ハ其ノ業務ニ關スル帳簿書類ヲ検査スルコトヲ得

收稅官吏ハ入場稅ニ付第一種ノ催物若ハ設備ノ主催者若ハ經營者又ハ第二種ノ場所ノ經營者ニ對シ質問ヲ爲シ又ハ其ノ業務ニ關スル帳簿書類ノ他ノ物件ヲ検査スルコトヲ得

前項ノ規定ハ特別入場稅ニ付之ヲ準用ス

收稅官吏ハ物品稅ニ付第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ製造者又ハ販賣者ニ對シ質問ヲ爲シ又ハ左ニ掲グル物件ニ付検査ヲ爲シ若ハ監督上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一 第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ニシテ製造者又ハ販賣者ノ所持スルモノ

二 第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ製造、貯藏又ハ販賣ニ關スル一切ノ帳簿書類

三 第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ製造、貯藏又ハ販賣上必要ナル建築物、機械、器具、材料其ノ他

ノ物件

第五十五條 詐偽其ノ他不正ノ行爲ニ依リ利益配當稅又ハ公債及社債利子稅ヲ遁脫シタル者ハ其ノ遁脫シタル税金ノ三倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處シ直ニ其ノ税金ヲ徵收ス但シ自首シタル者又ハ稅務署長ニ申出テタル者ハ其ノ罪ヲ問ハズ

第五十六條 詐偽其ノ他不正ノ行爲ニ依リ物品稅ヲ遁脫シ又ハ遁脫セントシタル者ハ其ノ遁脫シ又ハ遁脫セントシタル税金ノ五倍ニ相當スル罰金ニ處シ直ニ其ノ税金ヲ徵收ス但シ罰金額ガ二十圓ニ滿タザルトキハ之ヲ二十圓トス

第五十七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一 政府ニ申告セズシテ第一種ノ催物若ハ設備ヲ開催若ハ經營シ又ハ第二種ノ場所ヲ經營シタル者

二 第四十五條ノ規定ニ依ル申告ヲ怠リ又ハ詐リタル者

三 政府ニ申告セズシテ第一種ノ物品ノ小賣業ヲ營ミ又ハ第二種ノ物品若ハ構寸ヲ製造シタル者

第五十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一 第二十五條第一項、第三十二條第一項又ハ第五十二條第一項ノ規定ニ依ル帳簿ノ記載ヲ怠リ若ハ詐リ又ハ帳簿ヲ隱匿シタル者

二 第二十五條第二項、第三十二條第二項又ハ第五十二條第二項ノ規定ニ依ル申告ヲ怠リ又ハ詐リタル者

三 第五十四條第一項、第二項又ハ第四項ノ規定ニ依ル收稅官吏ノ質問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虛構ノ陳述ヲ爲シ又ハ其ノ職務ノ執行ヲ拒ミ、妨グ若ハ忌避シタル者

支那事變特別税法

四〇八

第五十九條 第五十五條及第五十六條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ規定ヲ適用セズ
第六十條 第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ製造者又ハ販賣者ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ従業者ガ其ノ業務ニ關シ本法中物品税ニ關スル規定ニ違反シタルトキハ其ノ製造者又ハ販賣者ヲ處罰ス

第六十一條 北海道、府縣、市町村其ノ他ノ公共團體ハ本法ニ依リ増徴スル税額(第七條ノ規定ニ依リ増額ト爲ル部分ヲ含マズ)又ハ本法ニ依リ課スル利益配當税、公債及社債利子税、通行税、入場税、特別入場税及物品税ニ付附加税ヲ課スルコトヲ得ズ但シ特別ノ事情アル市町村ニ限り内務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受ケタルトキハ第六條ノ規定ニ依リ課スル所得税ノ附加税ヲ課スルコトヲ得
北海道、府縣、市町村其ノ他ノ公共團體ハ第一種ノ場所ノ入場者又ハ第二種ノ場所ノ設備利用者ニ對シ入場税ノ課税標準タル入場料ヲ標準トシテ地方税ヲ課スルコトヲ得ズ
前項ノ規定ハ特別入場税ニ付之ヲ準用ス

第六十二條 政府ハ當分ノ内酒造組合法ニ依リ設立シタル酒造組合中央會ニ對シ徵稅上必要ナル設備ヲ爲シ又ハ徵收事務ノ補助ヲ爲スベキコトヲ命ズルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ酒造組合中央會ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ交付金ヲ交付スルコトヲ得
第六十三條 本法ニ於テ保稅地域ト稱スルハ關稅法ノ定ムル所ニ依ル

附 則

第六十四條 本法ハ昭和十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第六十五條 北支事變特別税法ハ之ヲ廢止ス

法人ノ昭和十三年三月三十一日以前ニ終了シタル各事業年度分ノ所得特別税及臨時利得特別税、昭和十三年三月三十一日以前ニ販賣、製造場ヨリノ移出又ハ保稅地域ヨリノ引取ヲ爲シタル北支事件特別税法第二十條ニ掲グル第一種又ハ第二種ノ物品ニ對スル物品特別税其ノ他昭和十三年三月三十一日以前ニ於テ賦課シ若ハ賦課スベカリシ又ハ徵收シ若ハ徵收スベカリシ北支事件特別税ニ關シテハ仍舊法ニ依ル
前項ノ規定ニ依ル北支事件特別税ノ收入ハ之ヲ臨時軍事費特別會計ノ歳入トス

第六十六條 所得税中第一種ノ所得税ニ付テハ普通所得及超過所得ニ對スル所得税ハ昭和十三年四月一日以後ニ終了スル事業年度分、清算所得ニ對スル所得税ハ昭和十三年四月一日以後ニ於ケル解散又ハ合併ニ因ル分ヨリ、第三種ノ所得税ニ付テハ昭和十三年分ヨリ本法ヲ適用ス但シ第七條ノ規定ハ昭和十二年分所得税ヨリ之ヲ適用ス

第六條ノ規定ニ依リ第三種ノ所得ニ付新ニ納稅義務ヲ有スルニ至リタル者ハ昭和十三年四月十五日迄ニ其ノ所得金額ヲ申告スベシ

前項ノ場合ニ於テハ所得金額ノ申告ト同時ニ所得税法第十六條又ハ第十六條ノ三ノ規定ニ依ル控除ヲ申請スルコトヲ得

法人ノ昭和十三年四月一日以後ニ終了スル各事業年度分ノ所得ニ對スル所得税及支拂期ノ昭和十三年四月一日以後ニ在ル貸付信託ノ利益ニ對スル所得税ニ付テハ北支事件特別税中ノ第二種所得税ヲ納ムル者ノ所

支那事變特別税法

四〇九

得特別稅ハ之ヲ第二種ノ所得ニ對スル所得稅ト看做シ所得稅法第二十一條第二項及第三項又ハ第二十二條第二項及第三項ノ規定ヲ適用ス

第六十七條 法人資本稅ニ付テハ昭和十三年四月一日以後ニ終了スル事業年度分ヨリ本法ヲ適用ス

第六十八條 昭和十三年六月三十日迄ニ製造場又ハ保税地域ヨリ引取ラルル砂糖、糖蜜及糖水ノ消費稅ニ付テハ第十條ノ規定ニ拘ラズ命令ヲ以テ特別ノ徵收猶豫期間ヲ定ムルコトヲ得

第六十九條 本法施行ノ際製造場又ハ保税地域以外ノ場所ニ於テ同一人が二萬斤ヲ超ユル數量ノ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ所持スル場合ニ於テハ其ノ者ニ於テ本法施行ノ日ニ之ヲ製造場ヨリ引取リタルモノト看做シ砂糖消費稅ヲ課ス此ノ場合ニ於テハ二萬斤ヲ超ユル數量ニ付第九條ニ規定スル稅率ニ依リ算出シタル稅額ト臨時租稅增徵法第十七條ニ規定スル稅率ニ依リ算出シタル稅額トノ差額ヲ以テ其ノ稅額トシ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ徵收ス

前項ノ砂糖、糖蜜又ハ糖水ノ所持者ハ其ノ所持スル砂糖、糖蜜又ハ糖水ノ種別、數量及貯藏ノ場所ヲ本法施行後一月内ニ政府ニ申告スベシ

第七十條 本法施行前ヨリ引續キ汽車、電車、乗合自動車又ハ汽船ニ依ル運輸業ヲ營ム者又ハ運輸業者ニ代リテ乘車船券ヲ販賣スル者本法施行後一月内ニ其ノ旨ヲ政府ニ申告スルトキハ本法施行ノ日ニ於テ本法ニ依リ申告シタルモノトス

本法施行前ヨリ引續キ第二十六條ニ規定スル第一種ノ催物若ハ設備ヲ開催者ハ經營スル者、同第二種ノ場所ヲ經營スル者又ハ運動競技ヲ開催スル者本法施行後一月内ニ其ノ旨ヲ政府ニ申告スルトキハ本法施行ノ

日ニ於テ本法ニ依リ申告シタルモノト看做ス

本法施行前ヨリ引續キ第三十八條ニ掲グル第一種ノ物品ノ小賣業ヲ營ム者又ハ同第二種ノ物品若ハ燻寸ノ製造ヲ爲ス者本法施行後一月内ニ其ノ旨ヲ政府ニ申告スルトキハ本法施行ノ日ニ於テ本法ニ依リ申告シタルモノト看做ス

北支事件特別稅法第二十條ニ掲グル第一種ノ物品ノ小賣業ヲ營ム者又ハ同第二種ノ物品ノ製造ヲ爲ス者ニシテ同法ニ依リ其ノ旨ヲ申告シタルモノハ第五十一條前段ノ申告ヲ要セズ

第七十一條 第三十八條ニ掲グル第二種ノ物品ノ製造者又ハ販賣者ガ本法施行ノ際製造場又ハ保税地域以外ノ場所ニ於テ所持スル各號ニ掲グル品名毎ニ價格三千圓ヲ超ユル第二種ノ物品(第一號乃至第五號ニ掲グル物品ヲ除ク)ヲ所持スル場合ニ於テハ其ノ場所ヲ以テ製造場、其ノ所持者ヲ以テ製造者ト看做シ之ニ物品稅ヲ課ス此ノ場合ニ於テハ本法施行ノ日ニ於テ其ノ物品ヲ製造場ヨリ移出シタルモノト看做シ其ノ價格中三千圓ヲ超ユル部分ニ付命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ物品稅ヲ徵收ス

前項ノ規定ハ同第三種ノ物品ノ製造者又ハ販賣者ガ本法施行ノ際製造場又ハ保税地域以外ノ場所ニ於テ千萬本ヲ超ユル數量ノ燻寸又ハ三十石ヲ超ユル數量ノ酒類ヲ所持スル場合ニ付之ヲ準用ス

前二項ノ製造者又ハ販賣者ハ第二種ノ物品ニ付テハ其ノ品名毎ニ數量、價格及貯藏ノ場所、第三種ノ物品ニ付テハ其ノ品名毎ニ數量及貯藏ノ場所ヲ本法施行後一月内ニ政府ニ申告スベシ

第七十二條 明治四十年法律第二十一號第一條第一項ニ左ノ六號ヲ加フ

十二 利益配當稅

支那事變特別稅法

支那事變特別稅法

- 十三 公債及社債利子稅
- 十四 通行稅
- 十五 入場稅
- 十六 特別入場稅
- 十七 物品稅

第七十三條 明治四十四年法律第四十五號第二條中「骨牌稅法」ノ下ニ「支那事變特別稅法」ヲ加ヘ同法第三條中「骨牌稅法」ノ下ニ「支那事變特別稅法」ヲ加ヘ「骨牌又ハ」ヲ「骨牌、支那事變特別稅法第三十八條ニ掲クル物品又ハ」ニ改メ同法ニ左ノ一條ヲ加フ

第四條 樺太ニ於テハ本法ノ施行ニ關シ必要アルトキハ勅令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

第七十四條 大正九年法律第五十一號中「北支事件特別稅法第二十條ニ掲クル第二種ノ物品」ヲ「燐寸、支那事變特別稅法第三十八條ニ掲クル第二種ノ物品」ニ改ム

第七十五條 樺太酒類出港稅法第二條中「醱酎ニ付テハ酒造稅法、酒精又ハ酒精含有飲料ニ付テハ酒精及酒精含有飲料稅法ノ造石稅」ヲ「移出先ニ於クル內國稅ノ稅率」ニ改ム

第七十六條 本法ハ支那事變終了後其ノ翌年十二月三十一日迄ニ之ヲ廢止スルモノトス

支那事變特別稅法施行規則

(昭和十三年四月一日
勅令第二百號)

- 第一條 稅務署長支那事變特別稅法第七條第一項ノ規定ニ依リ所得金額ヲ決定セントスル場合ニ於テハ其ノ所得金額ノ調査書ヲ所得調査委員會ニ送付スベシ
- 第二條 稅務署長支那事變特別稅法第七條第一項ノ規定ニ依リ所得金額ヲ決定シタルトキハ之ヲ納稅義務者ニ通知スベシ
- 第三條 支那事變特別稅法第十四條又ハ第十七條ノ規定ニ依リ配當金又ハ利子金額ノ支拂者利益配當稅又ハ公債及社債利子稅ヲ徵收シタルトキハ翌月十日迄ニ拂込書及計算書ヲ添ヘ之ヲ最寄ノ日本銀行ノ本店、支店又ハ代理店ニ拂込ムベシ
- 第四條 支那事變特別稅法第二十條第二號ノ規定ニ依リ陸海軍ノ團體トシテノ乘車船ニシテ通行稅ヲ課セザルモノヲ定ムルコト左ノ如シ
- 一 鐵道軍事供用令ニ依ル乘車
 - 二 軍事上ノ必要ニ依リ貸切ノ契約ニテ爲ス乘船
- 第五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ乘車船區間ノ行程ハ各其ノ定ムル所ニ依リ之ヲ計算ス
- 一 往復乘車船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ乘車船區間ノ行程ハ往復各別ニ之ヲ計算ス
 - 二 週遊乘車船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ乘車船區間ノ行程ハ各區間毎ニ之ヲ計算ス

支那事變特別稅法施行規則

支那事變特別税法施行規則

四一四

- 三 均一制又ハ區間制ニ依リ運賃ヲ定メタル區間ヲ乘車船スル契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ該乘船契約ニ依リ乘車船シ得ベキ區間中最モ短キモノニ依リ乘車船區間ノ杆程ヲ計算ス
- 第六條 汽車、電車、乗合自動車又ハ汽船ニシテ其ノ等級ヲ一等、二等及三等ニ分タザルモノニ付テハ支那事變特別税法第十九條第一項、第五項及第二十條第一號ノ等級ハ等級ヲ分タザルモノニ在リテハ三等、二等級ニ分タザルモノニ在リテハ二等及三等、一等ノ上又ハ三等ノ下ニ更ニ等級ヲ設ケタルモノニ在リテハ一等又ハ三等トス
- 第七條 乗客定員數ノ定ナキ車船ニ付貨切乘車船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ支那事變特別税法第十九條第六項ノ乗客定員數ハ運賃計算ノ基準ト爲リタル人員ニ依ル
- 第八條 支那事變特別税法第二十三條第一項ノ納期限ハ鐵道省ニ付テハ翌月二十日トス
- 第九條 支那事變特別税法第二十三條第一項ノ運輸業者通行稅ヲ徵收シタルトキハ納期限迄ニ拂込書及計算書ヲ添ヘ之ヲ最寄ノ日本銀行ノ本店、支店及ハ代理店ニ拂込ムベシ
- 前項ノ計算書ハ鐵道省ニ在リテハ其ノ添附ヲ省略スルコトヲ得
- 第十條 汽車、電車、乗合自動車又ハ汽船ニ依ル運輸業ヲ營マントスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル申告書ヲ營業所所轄稅務署ニ提出スベシ
 - 一 住所及氏名又ハ名稱
 - 二 營業所ノ所在地及其ノ名稱
 - 三 運輸業ノ種類(汽車、電車、乗合自動車又ハ汽船ニ依ル運輸業ノ區別)

- 四 線路、路線又ハ航路ノ名稱、起終點ノ地名及杆程
- 五 汽車、電車、乗合自動車又ハ汽船ノ等級區分
- 六 乘車船券ノ種類

第十一條 運輸業者ニ代リテ乘車船券ヲ販賣セントスル者ハ其ノ住所及氏名又ハ名稱、販賣場ノ所在地並ニ運輸業者ノ住所及氏名又ハ名稱ヲ記載シタル申告書ヲ販賣場所轄稅務署ニ提出スベシ

第十二條 稅務署長ハ必要アリト認ムルトキハ運輸業者ニ左ノ事項ヲ申告セシムルコトヲ得

- 一 停車場、停留所又ハ乘船場ノ名稱及其ノ所在地
- 二 停車場、停留所又ハ乘船場間ノ杆程
- 三 運賃ヲ杆制ニ依リ定メタルトキハ一杆當運賃、區間制ニ依リ定メタルトキハ各區間及其ノ運賃、均一制ニ依リ定メタルトキハ均一運賃
- 四 回数、定期、團體又ハ貨切ノ乘車船ニ付特別ノ運賃ヲ定メタルトキハ其ノ運賃
- 五 運輸業者ニ代リテ乘車船券ヲ販賣スル者ノ住所氏名又ハ名稱並ニ其ノ販賣場ノ所在地
- 六 連帶運輸ヲ爲ス運輸業者ノ住所及氏名又ハ名稱並ニ連帶運輸ヲ爲ス線路、路線又ハ航路ノ名稱其ノ停車場、停留所又ハ乘船場ノ名稱及該停車場、停留所又ハ乘船場間ノ杆程
- 第十三條 前三條ノ規定ニ依リ申告シタル事項ニ異動ヲ生ジタルトキハ其ノ都度所轄稅務署ニ申告スベシ
- 第十四條 運輸業者又ハ運輸業者ニ代リテ乘車船券ヲ販賣スル者ノ業ヲ相續又ハ合併ニ因リ承繼シタル者ハ其ノ旨ヲ所轄稅務署ニ申告スベシ

支那事變特別税法施行規則

四一五

支那事變特別税法施行規則

四一六

第十五條 運輸業者又ハ運輸業者ニ代リテ乗車船券ヲ販賣スル者其ノ業ヲ廢止セントスルトキハ其ノ旨ヲ所轄稅務署ニ申告スベシ

第十六條 運輸業者又ハ運輸業者ニ代リテ乗車船券ヲ販賣スル者ハ毎日左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スベシ

一 稅率ノ區別ニ從ヒ通行稅ヲ課セラレタル者ノ人員及稅額

二 支那事變特別税法第二十條各號ノ區別ニ從ヒ通行稅ヲ課セラレザル者ノ人員

第十七條 第十條乃至前條ノ規定ハ鐵道省ニ付テハ之ヲ適用セズ

第十八條 支那事變特別税法第二十六條ニ掲グル第一種第三號ノ場所ヲ定ムルコト左ノ如シ

一 博覽會場

二 展覽會場

三 遊園地

第十九條 支那事變特別税法第二十六條ニ規定スル第一種ノ場所ノ入場料ハ左ノ各號ノ規定ニ依リ之ヲ算定ス

一 入場料ハ觀覽料、座席料、仲錢、下足料、敷物料其ノ他名義ノ何タルヲ問ハズ入場スル者ガ入場ノ爲ニ支拂フベキ金額ノ合計額

二 地方競馬ノ入場料ハ前號ノ規定ニ拘ラズ入場ノ爲ニ支拂フベキ金額ヲ其ノ入場券ニ添附セラレタル優勝馬投票券ノ票數ニテ除シテ得タル金額

支那事變特別税法第二十六條ニ規定スル第二種ノ場所ノ入場料ハ舞蹈料、競技料、會費其ノ他名義ノ何タルヲ問ハズ入場スル者ガ設備ヲ利用スル爲ニ支拂フベキ金額ニ依ル

第二十條 支那事變特別税法第二十九條ニ規定スル收益ノ總額ハ入場料總額ヨリ其ノ入場料ヲ得ルニ直接必要ナル經費ヲ控除シタル金額ニ依ル

第二十一條 入場料又ハ收益ノ總額ヲ左ノ目的ニ充ツル場合ニ於テハ支那事變特別税法第二十九條ノ規定ニ依リ入場稅ヲ免除ス

一 軍人ノ慰恤並ニ支那事變ノ爲ニ從軍シタル軍人及軍屬ノ家族又ハ遺族ノ慰問其ノ他ノ軍事援護

二 兵器、艦船其ノ他ノ國防金品ノ獻納

第二十二條 第一種ノ催物(第一種ノ場所ニ於ケル演劇、活動寫眞、演藝、觀物、競馬其ノ他ノ催物ヲ謂フ以下同シ)若ハ設備ノ主催者若ハ經營者又ハ第二種ノ場所ノ經營者支那事變特別税法第二十九條ノ規定ニ依リ入場稅ノ免除ヲ受クントスルトキハ七日前ニ左ノ事項ヲ具シ第一種又ハ第二種ノ場所ノ所轄稅務署ニ申請シ承認ヲ受クベシ

一 期間

二 入場料又ハ收益ノ總額ヲ支出スベキ事業又ハ目的

三 入場料

四 收入支出ノ概算書

前項ノ承認ヲ受ケタル者其ノ開催若ハ經營ヲ終了シタルトキハ直ニ證憑書類ヲ添へ收入支出ノ計算書ヲ提出スベシ

支那事變特別税法施行規則

四一七

第二十三條 支那事變特別税法第三十條ノ規定ニ依リ第一種ノ催物若ハ設備ノ主催者若ハ經營者又ハ第二種ノ場所ノ經營者入場稅ヲ徵收シタルトキハ翌月十日迄ニ拂込書及計算書ヲ添ヘ之ヲ最寄ノ日本銀行ノ本店支店又ハ代理店ニ拂込ムベシ但シ常時開設ニ非ザルモノニ在リテハ左ノ場合ヲ除クノ外終了後直ニ之ヲ拂込ムベシ

- 一 開催又ハ經營ノ期間ガ一月以上ニ亘ル場合
- 二 開催期日一月前ヨリ入場券ヲ發賣スル場合

第二十四條 第一種ノ催物若ハ設備ヲ開場シ若ハ經營シ又ハ第二種ノ場所ヲ經營セントスル者ハ第一種又ハ第二種ノ場所毎ニ左ノ事項ヲ記載シタル申告書ヲ所轄稅務署ニ提出スベシ

- 一 主催者又ハ經營者ノ住所及氏名又ハ名稱
- 二 第一種又ハ第二種ノ場所ノ所在地及其ノ名稱
- 三 催物又ハ設備ノ種類
- 四 各等級別觀客定員及入場料
- 五 入場券發賣ノ方法
- 六 第一種又ハ第二種ノ場所ノ構造其ノ他設備ノ概要
- 七 開設ノ年月日及開催又ハ經營ノ期間

第二十五條 第一種ノ催物若ハ設備ノ主催者ハ經營又ハ第二種ノ場所ノ經營ニシテ常時開設スル者其ノ催物又ハ經營ヲ一月以上休止セントスルトキハ其ノ時期ヲ定メ所轄稅務署ニ申告スベシ

第二十六條 第一種ノ催物若ハ設備ノ主催者若ハ經營者又ハ第二種ノ場所ノ經營者前二條ノ規定ニ依リ申告シタル事項ニ異動ヲ生ジタルトキハ其ノ都度所轄稅務署ニ申告スベシ

第二十七條 第一種ノ催物若ハ設備ノ主催者若ハ經營又ハ第二種ノ場所ノ經營ヲ相續又ハ合併ニ因リ承繼シタル者ハ其ノ旨ヲ所轄稅務署ニ申告スベシ

第二十八條 第一種ノ催物若ハ設備ノ主催者若ハ經營又ハ第二種ノ場所ノ經營ヲ廢止セントスルトキハ其ノ旨ヲ所轄稅務署ニ申告スベシ

第二十九條 第一種ノ催物若ハ設備ノ主催者若ハ經營者又ハ第二種ノ場所ノ經營者第一種又ハ第二種ノ場所ヲ移轉セントスルトキハ移轉ノ事實ヲ具シ第二十四條及前條ノ規定ニ準ジ申告ヲ爲スベシ

第三十條 第一種ノ催物若ハ設備ノ主催者若ハ經營者ハ入場料領收ノ際入場券ヲ發行スベシ但シ稅務署長ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第三十一條 第一種ノ催物若ハ設備ノ主催者若ハ經營者又ハ第二種ノ場所ノ經營者ハ毎日左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スベシ

- 一 入場シタル人員
- 二 入場券ノ受入及拂出
- 三 入場料ノ總額
- 四 入場稅額

第三十二條 支那事變特別税法第三十六條ノ規定ニ依リ運動競技ノ主催者特別入場稅ヲ徵收シタルトキハ觀支那事變特別税法施行規則

技終了後直ニ拂込書及計算書ヲ添ヘテ最寄ノ日本銀行ノ本店、支店又ハ代理店ニ拂込ムベシ但シ左ノ場
合ハ翌月十日迄ニテ拂込ムベシ

一 開催ノ期間ガ一月以上ニ亘ル場合

二 開催期日一月前ヨリ入場券ヲ發賣スル場合

第三十三條 第十九條第一項第一號、第二十條乃至第二十二條、第二十四條乃至第二十六條、第二十八條、
第三十條及第三十一條ノ規定ハ特別入場税ニ付テ準用ス

第三十四條 支那事變特別税法第三十八條ノ規定ニ依リ物品税ヲ課スベキ物品ハ別表ニ定ムル所ニ依ル
別表ニ於テ貴金屬トハ金、銀、白金及此等ヲ主タル材料トスル合金ヲ謂フ

ハ白金ノ價格(二種以上ノモノヲ用ヒタルモノニ付テハ其ノ價格ヲ合算ス)ガ三圓以上ノモノヲ謂フ

第三十五條 支那事變特別税法第三十八條ニ掲グル第一種ノ物品中第十四號ニ掲グルモノニ付物品税ヲ課ス
ベキ場合ハ一回ノ賣買總金額ガ一萬圓ヲ超ユル場合ニ限ル但シ強制競賣ノ場合ハ物品税ヲ課セズ

第三十六條 支那事變特別税法第三十八條ニ掲グル第一種ノ物品ノ小賣業ヲ營メントスル者ハ販賣場及販賣
スベキ物品ヲ定メ其ノ住所及氏名又ハ名稱ヲ記載シタル申告書ヲ販賣場所轄稅務署ニ提出スベシ

第三十七條 支那事變特別税法第三十八條ニ掲グル第二種ノ物品又ハ構寸ヲ製造セントスル者ハ製造場及製
造スベキ物品ヲ定メ其ノ住所及氏名又ハ名稱ヲ記載シタル申告書ヲ製造場所轄稅務署ニ提出スベシ

第三十八條 第一種ノ物品ノ小賣業又ハ第二種ノ物品若ハ構寸ノ製造者一月以上販賣又ハ製造ヲ休止セン

トスルトキハ其ノ時期ヲ定メ所轄稅務署ニ申告スベシ

第三十九條 稅務署長ハ必要ト認ムルトキハ第二種ノ物品又ハ構寸ノ製造者ニ製造場ノ圖面及製造用ノ機械
器具ノ目錄ヲ提出セシムルコトヲ得

第四十條 第三十六條乃至第三十八條ノ規定ニ依リ申告シタル事項又ハ前條ノ規定ニ依リ提出シタル圖面若
ハ目錄ニ記載シタル事項ニ異動ヲ生ジタルトキハ其ノ都度所轄稅務署ニ申告スベシ

第四十一條 第一種ノ物品ノ小賣業又ハ第二種ノ物品若ハ構寸ノ製造業ヲ相續シタル者ハ其ノ旨ヲ所轄稅務
署ニ申告スベシ

第一種ノ物品ノ小賣業又ハ第二種ノ物品若ハ構寸ノ製造業ヲ讓受ケタル者ハ讓渡人ト連署シテ所轄稅務署
ニ申告スベシ

合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リ設立シタル法人ガ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ第一種ノ物品ノ小賣
業又ハ第二種ノ物品若ハ構寸ノ製造業ヲ承繼シタルトキハ合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタ
ル法人ハ其ノ旨ヲ所轄稅務署ニ申告スベシ

第四十二條 第一種ノ物品ノ小賣業又ハ第二種ノ物品若ハ構寸ノ製造業ヲ廢止セントスルトキハ其ノ旨ヲ所轄
稅務署ニ申告スベシ

第四十三條 第一種ノ物品ノ小賣業者又ハ第二種ノ物品若ハ構寸ノ製造者販賣場又ハ製造者ヲ移轉セントス
ルトキハ移轉ノ事實ヲ具シ第三十六條又ハ第三十七條及前條ノ規定ニ準ジ申告ヲ爲スベシ

第四十四條 第一種又ハ第二種ノ物品ニシテ通常容器ト共ニ販賣セラレルモノノ價格ハ其ノ容器ノ價格ヲ加
支那事變特別税法施行規則

支那事變特別税法施行規則

ヘタル金額ニ依ル

四二二

第四十五條 保稅地域ヨリ引取ラルル第一種又ハ第二種ノ物品ニシテ引取人ヨリ税金ヲ徵收スルモノノ價格ハ輸入ノ際ニ於ケル到着價格ニ當該物品ニ課セラルベキ關稅ニ相當スル金額ヲ加ヘタル金額ニ依ル

第四十六條 燐寸ノ本數ハ軸木ノ本數ニ依ル但シ二個以上ノ點火裝置ヲ附シタルモノニ付テハ其ノ點火裝置ノ個數ニ依ル

第四十七條 第一種ノ物品ノ販賣者又ハ製造者ガ第一種ノ物品ヲ保稅地域ヨリ引取ル場合ニ於テハ物品稅ハ之ヲ徵收セズ

前項ノ場合ニ於テ販賣者又ハ製造場ノ所轄稅務署ヨリ交付ヲ受ケタル販賣者又ハ製造者タルコトヲ證明スベキ書類ヲ所轄稅關ニ提出スベシ

第一項ノ場合ニ於テハ支那事變特別税法第四十五條第二項ノ規定ニ依ル申告書ノ提出ヲ要セズ

第四十八條 物品稅ノ免除ヲ受ケズシテ輸出シタル物品ヲ再輸入シ之ヲ保稅地域ヨリ引取ル場合ニ於テハ物品稅ヲ徵收セズ

前條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ付之ヲ準用ス

第四十九條 支那事變特別税法第四十五條第一項ノ規定ニ依ル申告書ハ所轄稅務署ニ之ヲ提出スベシ

前項ノ申告書ノ提出ナキトキ又ハ稅務署長ノ申告ヲ不適當ト認メタルトキハ稅務署長ハ其ノ課稅標準額ヲ決定スベシ

前二項ノ規定ハ支那事變特別税法第四十五條第二項ノ規定ニ依ル申告ニ付之ヲ準用ス

第五十條 第一種ノ物品ノ小賣業者又ハ第二種ノ物品ノ製造者返還ヲ受ケ又ハ戻入シタル物品ニ付支那事變特別税法第四十六條第一項ノ規定ニ依ル控除ヲ受ケントスルトキハ當該物品ニ付物品稅ヲ納付シ又ハ其ノ徵收ノ猶豫ヲ受ケタルコトヲ證明スベキ書類及返還又ハ戻入ノ事實ヲ證明スベキ書類ヲ呈示シテ當該物品ノ品名、數量及價格ニ付所轄稅務署ノ承認ヲ受ケベシ

第五十一條 支那事變特別税法第三十八條ニ掲グル第三種ノ物品ノ製造者戻入又ハ移入シタル物品ニ付同法

第四十六條第二項ノ規定ノ適用ヲ受ケントスルトキハ當該物品ニ付物品稅ヲ納付シ又ハ其ノ徵收ノ猶豫ヲ受ケタルコトヲ證明スベキ書類及戻入又ハ移入ノ事實ヲ證明スベキ書類ヲ呈示シテ當該物品ノ品名及數量ニ付所轄稅務署ノ承認ヲ受ケベシ

第五十二條 擔保物ノ種類ハ金錢又ハ國債ニ限ル

擔保トシテ金錢又ハ無記名國債證券ヲ提供スル時ハ之ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ所轄稅務署ニ提出スベシ
擔保トシテ登錄國債ヲ提供スルトキハ擔保ノ登錄ヲ受ケ其ノ登錄濟通知書ヲ所轄稅務署ニ提出スベシ
乙種國債登錄簿ニ登錄シタルモノニ在リテハ尙記名國債證券ヲ供託シ其ノ供託受領書ヲ提出スベシ
擔保トシテ提供シタル國債ノ價還ヲ受クルニ至リタルトキハ稅務署長ハ擔保提供者ヲシテ之ニ代ルベキ擔保ヲ提供セシムベシ

第五十三條 支那事變特別税法第四十七條第二項ノ規定ニ依リ擔保ヲ提供シタル者期限內ニ税金ヲ納付セザルトキハ擔保ヲ以テ之ニ充ツ但シ擔保物國債ナルトキハ之ヲ公賣ニ付シ税金及公賣ノ費川ニ充テ不足金アルトキハ之ヲ追徵シ殘金アルトキハ之ヲ還付ス

支那事變特別税法施行規則

四二三

支那事變特別稅法施行規則

四二四

第五十四條 支那事變特別稅法第四十八條第一項ノ規定ニ依リ第二種ノ物品又ハ燐寸ヲ製造場ヨリ移出セントスル者ハ其ノ旨ヲ所轄稅務署ニ申請シ承認ヲ受クベシ

第五十五條 前條ノ承認ヲ受ケ製造場ヨリ移出シタル第二種ノ物品又ハ燐寸ヲ移出先タル製造場又ハ藏置場ニ移入シタルトキハ移出先ノ營業者ハ其ノ旨ヲ所轄稅務署ニ申告スベシ

第五十六條 支那事變特別稅法第四十九條第一項ノ規定ニ依リ第二種ノ物品又ハ葡萄酒ヲ製造場ヨリ移出セントスル者ハ其ノ旨ヲ所轄稅務署ニ申請シ承認ヲ受クベシ

前條ノ規定ハ前項ノ物品ヲ其ノ移出先ニ移入シタル場合ニ付之ヲ準用ス

第五十七條 支那事變特別稅法第四十九條第一項ノ規定ニ依リ物品稅ノ免除ヲ受ケタル物品ニ付其ノ用途ヲ變更セントスルトキハ其ノ旨ヲ所轄稅務署ニ申請シ承認ヲ受クベシ

第五十八條 支那事變特別稅法第五十條第一項第三號ノ規定ニ依リ物品稅ヲ免除スル物品ヲ定ムルコト左ノ如シ

- 一 醫療用ニ供スルモノ但シ第三種ノ物品ヲ除ク
- 二 機械用又ハ工業用ニ供スルモノ但シ第三種ノ物品ヲ除ク
- 三 神社、寺院、祠宇、佛堂、教會所及說教所ニ於テ式典禮拜用ニ供スルモノ但シ第三種ノ物品ヲ除ク
- 四 教育用ニ供スルモノ但シ中等學校又ハ小學校ニ於テ使用スル寫真機、映寫機、寫真用フィルム、蓄音器、蓄音器用レコード、ピアノ、オルガン、箏、三絃、ラヂオ聽取機及擴音器ニ限ル
- 五 軍用ニ供スルモノ但シ陸海軍ノ購入ニ係ル皮革製又ハ金屬製ノ靴及トランク、靴、毛皮、毛皮製品、

第一種第二十三號ノ皮革製品、メリヤス、メリヤス製品、寫真機、寫真機部分品、寫真用乾板、寫真用フィルム、寫真用感光紙、雙眼鏡、隻眼鏡、銃、銃部分品並ニ藥莢及彈丸ニ限ル

六 通信用ニ供スルモノ但シ無線電信又ハ無線電話（放送無線電話ヲ除ク）ノ用ニ供スルラヂオ聽取機及受信用真空管ニ限ル

第五十九條 第一種ノ物品ノ小賣業者又ハ第二種若ハ第三種ノ物品ノ製造者支那事變特別稅法第五十條及前條ノ規定ニ依リ物品稅ノ免除ヲ受ケントスルトキハ第一種ノ物品ヲ引渡シ又ハ第二種若ハ第三種ノ物品ヲ製造場ヨリ移出スル際其ノ旨ヲ所轄稅務署ニ申請シ承認ヲ受クベシ

第六十條 支那事變特別稅法第五十條第一項第一號ノ物品ニ付輸出ノ證明ヲ爲サントスルトキハ輸出免狀又ハ之ニ代ルベキ書類ヲ所轄稅務署ニ提出スベシ

第六十一條 支那事變特別稅法第四十八條第三項、第四十九條第二項及第五十條第二項ノ期間ハ稅務署長之ヲ指定ス

第六十二條 支那事變特別稅法第四十八條第三項但書、第四十九條第二項及第五十條第二項ノ規定ニ依リ承認ヲ受ケントスル者ハ事由ヲ具シ第五十四條、第五十六條第一項又ハ第五十九條第一項ノ稅務署ニ申請スベシ

前項ノ場合ニ於テ滅失シタル場所ガ前項ノ稅務署ノ管轄外ナルトキハ最寄稅務署ニ滅失ノ事實ヲ申告シテ證明書ノ下付ヲ受ケ前項ノ申請ノ際之ヲ提出スベシ

第六十三條 第五十四條乃至第五十七條及第五十九條乃至前條ノ規定ハ支那事變特別稅法第四十八條乃至第六十二條ノ規定ニ依リ施行ス

支那事變特別稅法施行規則

四二五

支那事變特別税法施行規則

五十條ノ規定ノ適用ヲ受ク保稅地域ヨリ引取ラルル第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ニ付之ヲ準用ス

第六十四條 第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ販賣者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スベシ

一 受入レタル物品ノ品名、數量、價格及受入ノ日竝ニ其ノ引渡人ノ住所及氏名又ハ名稱

二 販賣シタル物品ノ品名、數量、價格及販賣ノ日竝ニ買受人ノ住所及氏名又ハ名稱

小賣ノ場合ニ於テハ前號第二號ノ買受人ノ住所及氏名又ハ名稱ノ記載ヲ要セズ但シ所轄稅務署監督上必要アリト認メ其ノ記載ヲ命ジタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第六十五條 第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ製造者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スベシ

一 受入レタル材料ノ種類、數量及受入ノ日竝ニ其ノ引渡人ノ住所及氏名又ハ名稱

二 使用シタル材料ノ種類、數量及使用ノ日

三 製造シタル物品ノ品名、數量及製造ノ日

四 販賣シ又ハ移出シタル物品ノ品名、數量、價格及販賣又ハ移出ノ日竝ニ其ノ買受人又ハ引取人ノ住所及氏名又ハ名稱

前條第二項ノ規定ハ前項第四號ニ掲グル事項ノ記載ニ付之ヲ準用ス

第六十六條 販賣場ヲ有セズシテ第一種ノ物品ノ小賣業ヲ營ム者ニ在リテハ其ノ住所、住所ナキトキハ居所ヲ以テ販賣場ト看做ス

第六十七條 本令中稅務署ニ屬スル事務ハ保稅地域ヨリ引取ラルル物品ニ關シテハ稅關之ヲ行フ

第六十八條 收稅官吏支那事變特別税法第五十四條第一項ノ規定ニ依リ帳簿書類ヲ検査スルトキハ検査章ヲ

携帶スベシ

收稅官吏支那事變特別税法第五十四條第二項ノ規定ニ依リ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ検査スルトキハ検査章ヲ携帶スベシ

第六十九條 支那事變特別税法第六十二條第二項ノ交付金ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ定額ヲ以テ之ヲ交付ス

附 則

第七十條 本令ハ支那事變特別税法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第七十一條 北支事件特別税法施行規則ハ之ヲ廢止ス

支那事變特別税法第六十五條第二項ニ規定スル北支事件特別稅ニ關シテハ仍從前ノ規定ニ依ル

第七十二條 支那事變特別税法第六十八條ノ規定ニ依リ砂糖消費稅ノ徵收猶豫期間ヲ定ムルコト左ノ如シ

四月一日ヨリ同月十日迄ニ徵收ヲ猶豫スルモノ 昭和十三年七月三十一日迄

四月十一日ヨリ同月二十日迄ニ徵收ヲ猶豫スルモノ 同年八月三十一日迄

四月二十一日ヨリ同月三十日迄ニ徵收ヲ猶豫スルモノ 同年九月三十日迄

五月一日ヨリ同月十日迄ニ徵收ヲ猶豫スルモノ 同年十月三十一日迄

五月十一日ヨリ同月二十日迄ニ徵收ヲ猶豫スルモノ 同年十一月三十日迄

五月二十一日ヨリ同月三十一日迄ニ徵收ヲ猶豫スルモノ 同年十二月三十一日迄

六月一日ヨリ同月十日迄ニ徵收ヲ猶豫スルモノ 昭和十四年一月三十一日迄

支那事變特別税法施行規則

支那事變特別税法施行規則

四二八

六月十一日ヨリ同月二十日迄ニ徵收ヲ猶豫スルモノ
 同年二月二十八日迄
 六月二十一日ヨリ同月三十日迄ニ徵收ヲ猶豫スルモノ
 同年三月十一日迄
 第七十三條 支那事變特別税法第六十九條第一項又ハ第七十一條第一項若ハ第二項ノ規定ニ依リ課スベキ砂糖消費税又ハ物品税ハ其ノ税額百圓以下ナルトキハ昭和十三年五月三十一日限、税額百圓ヲ超ユルトキハ左ノ區分ニ依リ各月ニ等分シ其ノ月末日限之ヲ徵收ス
 税額百圓ヲ超ユルトキ
 昭和十三年五月及六月
 税額千圓ヲ超ユルトキ
 同年五月乃至七月
 税額二千圓ヲ超ユルトキ
 同年五月乃至八月
 税額五千圓ヲ超ユルトキ
 同年五月乃至九月
 第七十四條 支那事變特別税法第六十九條第二項又ハ第七十一條第三項ノ規定ニ依ル申告ハ砂糖、糖蜜若ハ糖水又ハ第二種若ハ第三種ノ物品ノ所在地所轄稅務署ニ之ヲ爲スベシ
 第七十五條 支那事變特別税法第七十條第一項ノ規定ニ依リ政府ニ申告セントスル者ハ第十條又ハ第十一條ノ規定ニ準ジテ作成シタル申告書ニ同法施行前ヨリ引續キ汽車、電車、乗合自動車又ハ汽船ニ依ル運輸業ヲ營ミ又ハ運輸業者ニ代リテ乗車船券ヲ販賣スルコトノ事實ヲ併セ記載シ之ヲ所轄稅務署ニ提出スベシ
 支那事變特別税法第七十條第二項ノ規定ニ依リ政府ニ申告セントスル者ハ第一種又ハ第二種ノ場所毎ニ第二十四條ノ規定ニ準ジテ作成シタル申告書ニ同法施行前ヨリ引續キ第一種ノ催物若ハ設備、第二種ノ場所又ハ運動競技ヲ開催若ハ經營スルコトノ事實ヲ併セ記載シ之ヲ所轄稅務署ニ提出スベシ

支那事變特別税法第七十條第三項ノ規定ニ依リ政府ニ申告セントスル者ハ第三十六條又ハ第三十七條ノ規定ニ準ジテ作成シタル申告書ニ同法施行前ヨリ引續キ第一種ノ物品ノ小賣業ヲ營ミ又ハ第二種ノ物品若ハ隣寸ヲ製造スルコトノ事實ヲ併セ記載シ之ヲ所轄稅務署ニ提出スベシ

課税物品表 (別表)

品名	課税最低限	
	單位	價格
第一種 甲類 一 貴石若ハ半貴石又ハ之ヲ用ヒタル製品 イ 貴石、半貴石 ダイヤモンド、ルビー、サファイヤ、アレキサンドライト、クリソベリール、トパーズ、スピネル、エメラルド、アクアマリン、ペリール、トールマリン、ジルコン、クリソライト、ガーネット、オパール、翡翠、水晶、瑪瑙、猫眼石、虎眼石、孔雀石、土耳其玉、月長石、青金石、クンツァイト、ブラッド		

支那事變特別税法施行規則

四二九

支那事變特別稅法施行規則

- イ 帽子
- ロ 杖及鞭
- ハ 傘（ビーチパラソルヲ含ム）
- 十二 皮革製又ハ金屬製ノ靴及トランク
- 十三 靴及履物
 - イ 靴
 - (一) 長靴
 - (二) 其ノ他
 - ロ 履物
- 十四 書畫及骨董
- 十五 室内裝飾用品
 - 置物、花器、香器、額縁、柱掛其ノ他ノ壁面裝飾用品、人形及節句飾物
- 十六 照明器具
 - スタンド、シャンデリヤ、ペンダント、ブラケット、グローブ及シェード
- 十七 圍碁及將棋用具

四三二

一個	一個	一個	一個	一足	一足	一足	一個又ハ一組	一個又ハ一組
五圓	三圓	六圓	十圓	四圓	十二圓	二十四圓	十圓	五圓

イ 圍碁用具

- (一) 碁盤
- (二) 碁石
- (三) 碁笥
- ロ 將棋用具
 - (一) 將棋盤
 - (二) 將棋駒
- 十八 家具
 - 箆筒、棚類、箱類、鏡臺類、机及卓子類、椅子及腰掛類、火鉢、臺類、屏風、衝立、几帳、衣桁、帽子掛
 - 十九 漆器、陶磁器及硝子製器具ニシテ別號ニ掲ゲザルモノ但シ理化學用器、醫療用器、電氣絕緣材料及土木建築材料ヲ除ク
 - 二十 貴金屬ヲ鍍シ又ハ張りタル製品ニシテ別號ニ掲ゲザルモノ
 - 二十一 毛皮又ハ毛皮製品
 - イ 毛皮
 - ロ 毛皮製品

一個	一組	一組	一組	一個	一個	一組	一個又ハ一組	一個又ハ一組	一個又ハ一組
十圓	五圓	三圓	五圓	二圓	五圓	二圓	五十圓	二十四圓	三圓

四三三

支那事變特別稅法施行規則

敷物、膝掛、手套類、襪卷、被服類、被服用ノ裏、襟、袖及縁

支那事變特別稅法施行規則

四三四

二十二	羽毛製品又ハ羽毛ヲ用ヒタル製品	一個	五圓
イ	羽毛製品	一個	五圓
ロ	羽毛ヲ用ヒタル製品	一個	五圓
二十三	皮革製品ニシテ別號ニ掲ゲザルモノ	一個	十圓
イ	被服類	一個	五圓
ロ	座蒲團及クッション	一個	五圓
ハ	手袋	一對	二圓
二十四	メリヤス、レース、フェルト及同製品	一個	七圓
イ	外套、和服用コート及羽織	一個	七圓
ロ	襟卷	一個	五圓
ハ	ネクタイ、手巾及手袋	一個又ハ一組	二圓
ニ	靴下及之ニ類スルモノ	一足	一圓
ホ	スウェーター、肌着、下着及前各號以外ノ被服類	一個又ハ一組	四圓
ヘ	窓掛、卓子掛、敷物及之ニ類スルモノ	一個又ハ一組	三圓
ト	イ號乃至ヘ號ニ掲ゲル物品ノ製造用ニ供シ得ベキ生地	一平方米	三圓

第二種

甲類

- 一 寫眞機、寫眞引伸機、映寫機、同部分品及附屬品
 - イ 寫眞機但シ航空機用ノモノ及顯微鏡用ノモノヲ除ク
 - ロ 寫眞引伸機
 - ハ 映寫機
 - ニ 寫眞機部分品及附屬品
 - レンズ（シャッター附ノモノヲ含ム）、暗函（蛇腹ノ有無ヲ別タズ）、シャッター、フィルムバックホルダー、取棒、ファインダー、三脚臺、カラーフィルムター、セルフタイマー、露出計、距離計及寫眞機用又ハ三脚臺用ケース
 - ホ 寫眞引伸機部分品
 - 暗函、コンデンサー、レンズ及支持臺
 - ヘ 映寫機部分品及附屬品
 - コンデンサー、レンズ、フィルムリール、ランプハウス、映寫機用ランプ、ヘッドマシン、映寫機用モーター、發聲裝置、フィルム巻取機、カラースクリーン及映寫機用ケース
- 二 寫眞用ノ乾板、フィルム及感光紙
 - イ 寫眞用乾板但シ航空機用ノモノ及エックス線用ノモノヲ除ク

支那事變特別稅法施行規則

四三五

支那事變特別稅法施行規則

四三六

ロ 寫眞用フィルム但シ航空機用ノモノ及エックス線用ノモノヲ除ク
ハ 寫眞用感光紙

三 蓄音機及同部分品

イ 蓄音器(ラヂオ聴取装置ヲ附シタルモノヲ含ム)

ロ 蓄音器部分品

蓄音器匣、サウンド、ボックス、移動腕金、ピックアップ、蓄音器用モーター、回轉盤、動力用
センマイ及蓄音器用針

四 蓄音器用レコード但シ六吋以下ノ紙製ノモノヲ除ク

五 樂器、同部分品及附屬品

イ 樂器

ピアノ、オルガン、アコーディオン、ハーモニカ、バイオリン、ヴィオラ、セロ、コントラバス、マンドリン、マンダラ、マンドリラ、マンドセロ、マンドローネ、ギター、ギタローネ、ライカ、ウクレレ、パンジョー、フリユート、ピッコロ、クラリネット、オーボ、バズーン、コルネット、トランペット、トロンボーン、アルト、バリトン、チューバ、サクソフオーン、スザフォーン、ホルン、バイブラフオーン、木琴、鐵琴、ハープ、リラ、箏、三絃、琵琶、明笛及尺八

ロ 樂器部分品及附屬品

絃樂器用ノ絃、弓又ハ撥及樂器用ケース

六 雙眼鏡及雙眼鏡

七 銃及同部分品

イ 銃

獵銃、拳銃及空氣銃

ロ 銃部分品

銃身及銃床

八 藥莖(裝藥シタルモノヲ含ム)及彈丸但シ獵銃、拳銃又ハ空氣銃用ノモノニ限ル

九 ゴルフ用具、同部分品及附屬品

イ ゴルフクラブ及ゴルフボール

ロ ゴルフクラブノヘッド及シャフト

ハ ゴルフクラブ用バッグ

十 娛樂用ノモーターボート、スカール及ヨット

十一 撞球用具

撞球臺、キュー、球及チョーク

十二 ネオン管及同變壓器

十三 喫煙用ライター

支那事變特別稅法施行規則

四三七

支那事變特別税法施行規則

四三八

乙類

- 十四 ラヂオ聴取機及同部分品
 - イ ラヂオ聴取機但シ真空管ヲ使用セザルモノ及大藏大臣ノ指定スルモノヲ除ク
 - ロ ラヂオ聴取機部分品
 - ラヂオ聴取匣、トランスフォーマー、チョークコイル、コンデンサー及ジャジー
- 十五 受信用真空管及擴聲器
 - イ 受信用真空管
 - ロ 擴聲器
- 十六 扇風機及同部分品
 - イ 扇風機
 - ロ 扇風機部分品
 - 扇風機用ノ羽根及モーター
- 十七 煖房用ノ電氣、瓦斯又ハ礦油ストーブ
- 十八 冷蔵庫及同部分品
 - イ 冷蔵庫
 - ロ 冷蔵庫部分品
 - 冷蔵庫用冷凍機

十九 金庫及鋼鐵製家具

- イ 金庫(手提金庫ヲ含ム)
- ロ 鋼鐵製家具
 - 箪笥、櫥類、箱類、机及卓子類、椅子及腰掛類
- 二十 乗用自動車但シ普通乗用自動車ニシテ軸距二百八十九種ヲ超ユルモノニ限ル
- 二十一 化粧品
 - 香水、香紙、香袋、白粉、紅、化粧墨、クリーム、化粧下、化粧水、化粧粉、頭髮用ノ香水
 - 油及煉油、整髮料、シャンプー、染毛料、養毛料、洗粉、美爪料、脫毛料、脂取料

第三種

一 辨寸

- 二 酒類但シ濁酒及果實酒(酒精及酒精含有飲料税法第三條ノ三ニ規定スルモノヲ)除ク

支那事變特別税法施行規則

四三九

臨時租稅措置法 (昭和十三年三月三十一日法律第五十二號)

第一條 當分ノ内本法ニ依リ田畑地租、營業收益稅、礦產稅、特別礦產稅及雜物消費稅ヲ輕減又ハ免除シ砂金以外ノ砂鑛ニ付特別砂鑛區稅ヲ課ス

第二條 個人ノ田畑自作ノ所得ガ平常所得ニ對シ二割五分以上減少シタルトキハ其ノ納付スル田畑地租ヲ輕減ス

第三條 田畑地租ノ輕減額ハ田畑自作ノ所得ガ平常所得ニ對シ減少シタル割合ニ從ヒ左ノ割合ノ金額トス
減少割合ガ二割五分以上三割五分未満ナルトキ 田畑地租額ノ二割

同三割五分以上五割未満ナルトキ

田畑地租額ノ三割

同五割以上七割未満ナルトキ

田畑地租額ノ四割

同七割以上ナルトキ

田畑地租額ノ五割

前項ノ輕減額ハ自作ノ田畑ニ對スル其ノ年分ノ地租額ニ付之ヲ計算ス

第四條 平常所得ハ昭和十一年以前三年ノ田畑自作ノ平均所得ニ依ル但シ昭和十二年一月一日ヨリ新ニ田畑自作ヲ開始シタル者ニ付テハ昭和十二年ノ所得ニ依ル

前項ニ規定スルモノヲ除クノ外平常所得ノ算定ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 田畑地租ノ輕減ヲ受ケントスル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ旨ヲ政府ニ申請スベシ

第六條 田畑地租ノ輕減ヲ申請シタル者ノ田畑自作ノ所得ハ政府ノ調査ニ依リ其ノ年第三種ノ所得金額ヲ決定スル時期ニ於テ政府之ヲ確定ス

第七條 所得稅法第十四條第一項第六號ノ規定及同條第三項中相續シタル資産ノ所得計算ニ關スル規定ハ本法ニ依ル田畑自作ノ所得ノ計算ニ付之ヲ準用ス

第八條 法人又ハ個人ノ營業(個人ニ付テハ營業收益稅法第二條ニ掲グル營業ヲ謂フ以下同シ)ノ純益ガ平常純益ニ對シ二割五分以上減少シタルトキハ其ノ納付スル營業收益稅ヲ輕減ス

第九條 營業收益稅ノ輕減ハ營業ノ純益ガ平常純益ニ對シ減少シタル割合ニ從ヒ左ノ割合ノ金額トス

減少割合ガ二割五分以上三割五分未満ナルトキ

營業收益稅額ノ二割

同三割五分以上五割未満ナルトキ

營業收益稅額ノ三割

同五割以上七割未満ナルトキ

營業收益稅額ノ四割

同七割以上ナルトキ

營業收益稅額ノ五割

第十條 法人ノ平常純益ハ昭和十一年以前三年内ニ終了シタル各事業年度ノ平均純益ニ依ル但シ第一次ノ事業年度ガ昭和十二年中ニ終了シタル法人ニ付テハ昭和十二年中ニ終了シタル各事業年度ノ平均純益ニ依ル個人ノ平常純益ハ昭和十一年以前三年ノ平均純益ニ依ル但シ昭和十二年一月一日ヨリ新ニ營業ヲ開始シタル個人ニ付テハ昭和十二年ノ純益ニ依ル
前二項ニ規定スルモノヲ除クノ外法人又ハ個人ノ平常純益ノ算定ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

臨時租稅措置法

第十一條 營業收益稅ノ輕減ヲ受ケントスル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ旨ヲ政府ニ申請スベシ

第十二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ營業收益稅ヲ輕減セズ

一 法人ノ營業ノ純益ガ年六千圓以上ナルトキ又ハ資本金額ニ對シ年百分ノ七ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユルトキ

二 個人ノ營業ノ純益ガ六千圓以上ナルトキ

三 法人ノ資本金額ガ二十萬圓以上ナルトキ

第十三條 營業收益稅法第四條第一項ノ規定ハ本法ニ依ル法人ノ營業ノ純益ノ計算ニ付、同法第六條ノ規定ハ本法ニ依ル個人ノ營業ノ純益ノ計算ニ付之ヲ準用ス

所得稅法第六條乃至第八條ノ規定ハ本法ニ依ル法人ノ資本金額ノ計算ニ付之ヲ準用ス

第十四條 田畑自作ノ所得又ハ個人ノ營業ノ純益ニ付當初確定額ニ比シ減損アル場合ニ於テ政府ハ申請ニ依

リ第二條乃至第四條又ハ第八條乃至第十條及第十二條ノ規定ニ準シ田畑地租又ハ營業收益稅ヲ輕減シ又ハ其ノ輕減稅額ヲ變更スルコトヲ得

前項ノ規定ハ田畑自作ノ所得ガ所得確定後相續又ハ贈與ニ因リ減損シタル場合又ハ營業ノ純益ガ純益金額決定後營業繼續ニ因リ減損シタル場合ニハ之ヲ適用セズ

第一項ノ申請ハ翌年一月三十一日迄ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第十五條 前條ノ場合ニ於テ營業ノ純益金額ガ當初決定額ニ比シ四分ノ一以上ノ減損ト爲ルトキハ其ノ實際純益額ニ基キ計算シタル營業收益稅額ニ付前條ノ規定ニ依ル輕減又ハ變更ヲ爲ス

第十六條 個人ノ營業收益稅ニ付純益金額決定後翌年純益金額決定前ニ於テ營業ヲ法人ニ繼續セシメタル者ノ當該營業ノ實際純益額ガ決定純益額ヲ超過スルトキハ其ノ超過額ハ之ヲ純益金額ノ決定ニ付脱漏アリタルモノト看做シ翌年ニ於ケル所得調査委員會ノ調査ニ依リ政府ニ於テ其ノ純益金額ヲ決定スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ當該營業ノ實際純益額ハ其ノ年ニ於ケル收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタル金額ニ依ル

第十七條 第十四條第一項ノ申請アリタルトキハ政府ハ其ノ處分ノ確定スルニ至ル迄税金ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

第十八條 昭和十三年一月一日以後續區ノ合併、分割又ハ分合ニ依ラズシテ設定セラレタル探掘權ニ基キ其ノ續區ヨリ產出シタル礦物ニシテ命令ヲ以テ指定スルモノニハ續產稅又ハ特別續產稅ヲ課セズ

第十九條 命令ヲ以テ指定スル礦物又ハ其ノ續產物ノ毎年ノ產出數量ガ昭和十二年中ニ於ケル產出數量ヲ超過シタル礦業ノ續產權者ニハ其ノ超過部分(礦物及續產物ノ產出數量ガ何レモ超過シタルトキハ其ノ超過割合ノ大ナル一方ノ超過部分)ニ付續產稅又ハ特別續產稅ヲ免除ス

自己ノ掘採シタル礦物ト他人ヨリ取得シタル礦物トヲ合併シ製鍊スル場合ニ於テ其ノ取得礦物ヨリ算出シタル續產物ノ數量ハ前項ノ續產物ノ產出量ニ之ヲ算入セズ但シ其ノ取得礦物ノ數量ガ自己ノ掘採シタル礦物ノ數量ヲ超過スルトキハ其ノ超過部分ノ礦物ヨリ產出スル續產物ノ數量ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

昭和十二年以後續業ノ全部又ハ一部ノ繼續アリタル場合ニ於テハ當該部分ヨリ昭和十二年中ニ產出シタル礦物又ハ其ノ續產物ノ數量ハ之ヲ繼續者ノ昭和十二年中ノ礦物又ハ其ノ續產物ノ產出數量ニ加算シ被繼續

臨時租稅措置法

四四五

者ノ昭和十二年中ノ礦物又ハ其ノ礦産物ノ産出數量ヨリ除算シ第一項ノ超過部分ヲ計算ス
前項ノ繼續アリタル場合ニ於テハ被繼續者ガ當該部分ヨリ其ノ年ニ於テ産出シタル礦物又ハ其ノ礦産物ノ
數量ハ之ヲ繼續者ノ其ノ年ニ於ケル礦物又ハ礦産物ノ産出數量ト看做ス
第二十條 砂金以外ノ砂礦ノ採取ヲ目的トスル砂礦權者ニハ左ノ稅率ニ依リ毎年特別砂礦區稅ヲ課ス

河床

砂礦區域一町毎ニ

金三十錢

河床ニ非ザルモノ

砂礦區域千坪毎ニ

金三十錢

前項ノ場合ニ於テ一町未滿又ハ千坪未滿ノ端數ハ之ヲ一町又ハ千坪トシテ計算ス

特別砂礦區稅ノ賦課徵收ニ關シテハ礦區稅ノ賦課徵收ニ關スル規定ヲ準用ス

北海道、府縣、市町村其ノ他公共團體ハ特別砂礦區稅ニ付附加稅ヲ課スルコトヲ得ズ

第二十一條 命令ヲ以テ定ムル混紡絲ハ之ヲ織物消費稅法第一條及第一條ノ二ニ規定スル綿又ハ綿絲ト看做
ス

第二十二條 綿絲又ハ前條ノ規定ニ依リ綿絲ト看做シタル絲ト人造絹絲トテ以テ組成シタル織物ニシテ命令
ヲ以テ定ムルモノハ織物消費稅法第一條ノ二ノ規定ニ拘ラズ之ヲ綿織物ト看做ス

第二十三條 本法ニ依リ輕減又ハ免除セララルル租稅ハ法令上ノ納稅資格要件ニ關シテハ輕減又ハ免除セラレ
ザルモノト看做ス

附 則

第二十四條 本法ハ昭和十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二十五條 田畑地租ニ付テハ昭和十三年分ヨリ、營業收益稅中法人ノ營業收益稅ニ付テハ昭和十三年一月
一日以後ニ終了スル事業年度分、個人ノ營業收益稅ニ付テハ昭和十三年分ヨリ本法ヲ適用ス但シ第十六條
ノ規定ハ昭和十二年分營業收益稅ヨリ之ヲ適用ス

第二十六條 礦産稅及特別礦産稅ニ付テハ昭和十三年分ヨリ本法ヲ適用ス

第二十七條 昭和十三年分ノ特別砂礦區稅ニ付テハ昭和十三年四月以後ノ月割ヲ以テ其ノ稅額ヲ計算シ同年
五月三十一日迄ニ之ヲ納付セシム

第二十八條 左ニ掲グル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

一 本法施行前消費稅ヲ課スベカリシモノ

二 本法施行前輸出若ハ朝鮮移出ノ目的ヲ以テ又ハ織物消費稅法第七條ノ規定ニ依リテ消費稅ヲ納付セズ
シテ製造場又ハ保税地域ヨリ引取りタルモノ

三 本法施行前消費稅ノ徵收ヲ猶豫シタルモノ

第二十九條 本法施行前消費稅ヲ納付シテ輸出シ又ハ朝鮮ニ移出シタルモノ

ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ本法施行後輸出シ又ハ朝鮮ニ移出スルモ織物消費稅法第三條第二項ノ規定及
大正九年法律第五十一號ヲ適用セズ

第三十條 本法ハ支那事變終了後其ノ年ノ翌年十二月三十一日迄ニ之ヲ廢止スルモノトス

臨時租稅措置法

四四五

臨時租稅措置法施行規則

(昭和十三年四月一日
大藏會令第二十一號)

- 第一條 田畑自作ノ期間一年未滿ニシテ其ノ所得ガ一年分ノ所得ニ非ズト認メラルル場合ニ於テハ田畑地租ノ輕減ヲ受クベキ年ニ於ケル自作ノ時期ト同一ノ時期ニ付昭和十一年以前又ハ昭和十二年ニ於テ自作ヲ爲シタルモノトシテ其ノ所得ヲ見積リ算出シ平常所得ヲ計算ス
- 第二條 田畑地租ノ輕減ヲ受ケントスル者ハ毎年三月十五日迄ニ土地所在ノ市町村(市制第六條又ハ第八十二條第三項ノ市ニ在リテハ區、以下同シ)ヲ經由シ其ノ旨所轄稅務署ニ申請スベシ
- 前項ノ申請書ニハ土地ノ所在、地番、地目、地積及賃貸價格ヲ記載シ田畑自作ノ所得及平常所得ノ計算書ヲ添附スベシ但シ申請者ガ自己ノ田畑ノ全部ニ付申請ヲ爲ス場合ニ於テハ地目毎地積及賃貸價格ノ合計額ヲ記載シ各筆ノ記載ヲ省略スルコトヲ得
- 第一項ノ申請ヲ爲シタル後自作ヲ爲スニ至リタル田畑ニ付テハ其ノ際前二項ニ準ジ其ノ地租ノ輕減ノ申請ヲ爲スコトヲ得
- 第三條 稅務署長ハ前條第一項ノ申請ヲ爲シタル者ノ田畑自作ノ所得ヲ調査シ其ノ年第三種ノ所得金額ヲ決定スル時期ニ於テ之ヲ確定スベシ
- 第四條 第二條第一項ノ申請アリタル場合ニ於テ稅務署長其ノ年ノ田畑自作ノ所得ガ平常所得ニ對シ二割五分以上減少セズト認メタルトキハ之ヲ却下スベシ

- 第五條 稅務署長田畑地租ノ輕減ノ決定ヲ爲シタルトキハ之ヲ納稅義務者及土地所在ノ市町村ニ通知スベシ
- 第六條 稅務署長第二條ノ申請ヲ受理シタル場合ニ於テ申請者ノ住所地ガ其ノ管轄區域内ニ在ラザルトキハ申請者ノ住所地ヲ管轄スル稅務署長ニ協議シ之ガ處分ヲ爲スベシ
- 第七條 市町村ハ田畑地租ノ輕減額ヲ地租法第七十四條ノ例ニ準ジ稅務署長ニ報告スベシ
- 第八條 法人ノ平常純益ハ昭和十一年以前三年内ニ終了シタル事業年度ノ總數ヲ以テ其ノ各事業年度ノ純益ノ合計額ヲ除シテ之ヲ計算ス但シ第一次ノ事業年度ガ昭和十二年中ニ終了シタル法人ニ付テハ昭和十二年中ニ終了シタル事業年度ノ總數ヲ以テ其ノ各事業年度ノ純益ノ合計額ヲ除シテ之ヲ計算ス
- 第九條 法人ノ平常純益ヲ計算スルニ當リ營業收益稅ノ輕減ヲ受クベキ事業年度ノ期間ガ昭和十一年以前三年内又ハ昭和十二年中ニ終了シタル各事業年度ノ期間ト異ル場合ニ於テハ昭和十一年以前三年内又ハ昭和十二年中ニ終了シタル各事業年度ノ純益ハ營業收益稅ノ輕減ヲ受クベキ事業年度ノ月數ニ應ジ月割ヲ以テ之ヲ換算ス
- 前項ノ月數ハ曆ニ從ヒ之ヲ計算シ一月未滿ノ端數ヲ生ジタルトキハ昭和十一年以前三年内又ハ昭和十二年中ニ終了シタル各事業年度ニ在リテハ之ヲ切捨テ營業收益稅ノ輕減ヲ受クベキ事業年度ニ在リテハ之ヲ一月トス
- 第十條 法人合併ヲ爲シタル場合ニ於テ合併後存続スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ノ平常純益ハ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ純益ヲ合算シテ之ヲ計算ス
- 第十一條 個人ノ營業ノ期間ガ一年未滿ナル場合ニ於テハ營業收益稅ノ輕減ヲ受クベキ年ノ營業ノ期間ノ月

數ニ應ジ月割ヲ以テ昭和十一年以前三年又ハ昭和十二年ノ純益ヲ算出シテ平常純益ヲ算出シテ平常純益ヲ計算ス

第九條第二項ノ規定ハ前項ノ月數ノ計算ニ付之ヲ準用ス

第十二條 營業收益稅ノ輕減ヲ受クントスル者ハ營業收益稅法ニ依ル純益金額ノ申告ト同時ニ其ノ旨所轄稅務署ニ申請スベシ

前項ノ申請書ニハ平常純益ノ計算書ヲ添附スベシ

第十三條 前條ノ申請アリタル場合ニ於テ稅務署長其ノ營業ノ純益ガ平常純益ニ對シ二割五分以上減少セズト認メタルトキハ之ヲ却下スベシ

第十四條 稅務署長營業收益稅ノ輕減ノ決定ヲ爲シタルトキハ之ヲ納稅義務者ニ通知スベシ

前項ノ通知ハ營業收益稅法ニ依ル純益金額ノ決定通知書ニ附記シテ之ヲ爲スコトヲ妨グズ

第十五條 臨時租稅措置法第十二條第一號ノ年六千圓ノ金額ハ事業年度ノ月數ヲ六千圓ニ乘ジ之ヲ十二分シタル金額ニ依ル前項ノ月數ハ曆ニ從ヒ之ヲ計算シ一月未滿ノ端數ヲ生ジタルトキハ之ヲ一月トス

第十六條 臨時租稅措置法第十二條第一號ノ年百分ノ七ノ割合ノ金額ハ事業年度ノ月數ヲ資本金額ニ乘ジ之ヲ十二分シタル金額ニ百分ノ七ヲ乘ジテ之ヲ計算ス

前條第二項ノ規定ハ前項ノ月數ノ計算ニ付之ヲ準用ス

第十七條 第二條(第三項ヲ除ク)、第四條乃至第六條及第十二條乃至第十四條第一項ノ規定ハ臨時租稅措置法第十四條ノ場合ニ付之ヲ準用ス

第十八條 稅務署長臨時租稅措置法第十六條第一項ノ規定ニ依リ純益金額ヲ決定セントスル場合ニ於テハ其ノ純益金額ノ調査書ヲ所得調査委員會ニ送付スベシ

第十九條 稅務署長臨時租稅措置法第十六條第一項ノ規定ニ依リ純益金額ヲ決定シタルトキハ之ヲ納稅義務者ニ通知スベシ

第二十條 臨時租稅措置法第十八條及第十九條ノ規定ニ依リ左ノ織物ヲ指定ス

金、銅、鐵、錫、鋁、亜鉛、硫化鐵、滿侖鐵、ニツクル織

第二十一條 臨時租稅措置法第二十一條ノ規定ニ依リ全重量百分中五十ヲ超ユル綿トステールファイバー

又ハ麻トノ混紡絲ハ之ヲ織物消費稅法第一條及第一條ノ二ニ規定スル綿又ハ綿絲ト看做ス

第二十二條 臨時租稅措置法第二十二條ノ規定ニ依リ全重量百分中五十ヲ超ユル綿絲又ハ前條ノ規定ニ依リ

綿絲ト看做シタル混紡絲ト人造絹絲トヲ以テ組成スル織物ハ織物消費稅法第一條ノ二ノ規定ニ拘ラズ之ヲ

綿織物ト看做ス

第二十三條 臨時租稅措置法第二十一條又ハ第二十二條ノ規定ニ依リ織物消費稅ヲ課セザルコトト爲リタル

織物ヲ製造セントスル者ハ織物消費稅法施行規則第二條ノ規定ニ依ル申告ノ際同條但書ニ規定スル事項ノ

外第二十一條ノ規定ニ依リ綿又ハ綿絲ト看做シタル混紡絲ニ付其ノ原料及重量割合ヲ併セ申告スベシ

附 則

本令ハ臨時租稅措置法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二條ノ規定中三月十五日トアルハ昭和十三年ニ限リ四月三十日トス

臨時租稅措置法施行規則

臨時租稅措置法施行規則

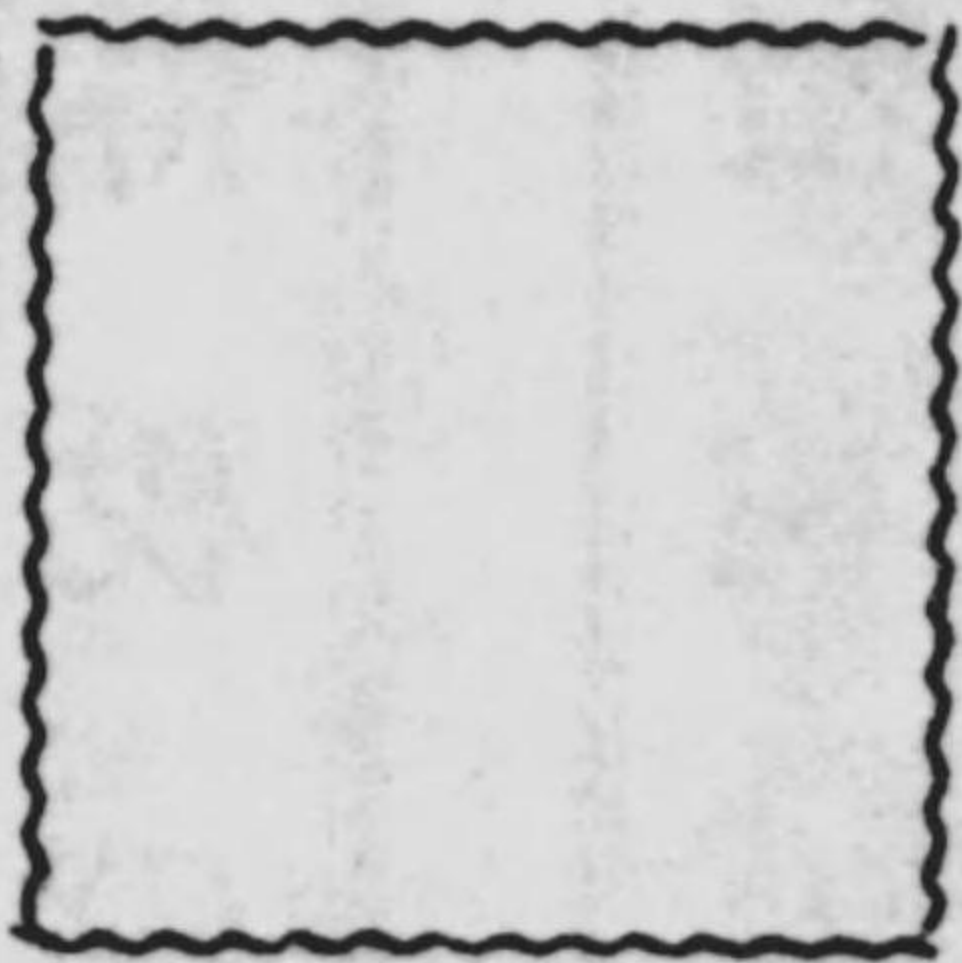
四五〇

昭和十三年一月一日以後本令施行前ニ於テ決算確定シ若ハ合併ヲ爲シ又ハ清算ニ著手シタル法人ノ當該事業年度分營業收益稅ニ對スル第十二條ノ申請ハ本令施行ノ日ヨリ決算確定又ハ合併ノ場合ニ在リテハ十四日內ニ、清算著手ノ場合ニ在リテハ二十日內ニ之ヲ爲スベシ
個人ノ昭和十三年分營業收益稅ニ對スル第十二條ノ申請ハ昭和十三年四月十五日迄ニ之ヲ爲スベシ
本令施行前ヨリ引續キ臨時租稅措置法第二十一條又ハ第二十二條ノ規定ニ依リ新ニ織物消費稅ヲ課セザルコトト爲リタル織物ヲ製造スル者ハ本令施行後一月內ニ第二十三條ニ規定スル事項ヲ所轄稅務署ニ申告スベシ

昭和十三年四月十日印刷
昭和十三年四月十四日發行

『新稅の語』

定價一圓七十錢



著者 勝 正 憲

發行者 千 倉 豊

印刷者 井 關 敦 雄

東京市京橋區京橋三ノ一
東京市神田區錢倉町十九

發行所 東京・京橋 第一相互館 千倉書房

電話 (56) 八八三
八八一七
七七一一
八九五六

明治印刷株式會社印刷

勝正憲著書目録

<p>日本税制改革史</p> <p>〔最新刊〕</p> <p>價二圓五十錢 （送料四角） （判別四一六頁） （送料二十二錢）</p>	<p>税の話</p> <p>〔新訂版〕</p> <p>價一圓五十錢 （送料四角） （判別三八九頁） （送料十二錢）</p>	<p>所得税の話</p> <p>〔新訂版〕</p> <p>價一圓五十錢 （送料四角） （判別四三六頁） （送料十二錢）</p>	<p>相續税の話</p> <p>〔新訂版〕</p> <p>價一圓五十錢 （送料四角） （判別三四四頁） （送料十二錢）</p>	<p>營業收益税の話</p> <p>〔新訂版〕</p> <p>價一圓五十錢 （送料四角） （判別三四〇頁） （送料十二錢）</p>	<p>印紙税の話</p> <p>〔新訂版〕</p> <p>價一圓五十錢 （送料四角） （判別三九〇頁） （送料十二錢）</p>
--	---	---	---	---	---

東京・京橋 第一相互館 千倉書房 振東 替京 八七九

小泉晋一著

爲替清算協定論概

最新刊
菊版箱入三一八頁
定價一圓八十錢
送料十八錢

東大名譽教授 山崎覺次郎序

國際貿易の新情勢
に適應せる唯一の
活路たる新爲替政
策の内容を批判檢
討せる學究的勞作

本書は、世界的戰時經濟情勢が齎らせる國際貿易の行詰りを打開する方
法として歐洲各國が擧げて採用し、我が日本に於てもその實施を必至と
されてをる爲替清算協定に關して、具體的、綜合的に究明せるもの。
爲替清算協定は金の流出を防衛し、同時に貿易活動を必要以上に束縛す
る爲替政策を修正して輸出入の活動を圓滑ならしむる役割を持つ。
本書は斯の如き我が國民生活に重大關係を有する爲替政策に寄與せんが
ために此の問題に關する凡ゆる實例と資料を蒐集し適切なる批判と解説
を試みたる、則下必讀の好著である。

益田直彦著

世界植民地の 資源と經濟

最新刊

菊版箱入三九二頁

定價二圓三十錢

送料十八錢

自信をもつて江湖に
おくる新人の良心的
勞作！ 世界植民地
の現勢を歴史的・現
實的に把握せしむる
國民的な參考文獻！

世界植民地の現在の情勢に關する知識を正確に把握することは、
混沌たる現下の國際情勢を認識するキイ・ポイントである。
本書は、世界植民地の配分状態、各植民地の經濟的、軍事的價值、
政治情勢・社會事情・民族解放運動等、歴史と現状の一切を、正
確最新の資料を以て、極めて具體的に解説せるものにして、如何
に各植民地が、現下の國際關係を左右する重大要因となりつゝあ
るかを一目瞭然に理解せしむる努力が盡されてゐる。

東大助教授
文學博士

淡路圓治郎著

人事管理

最新刊

菊判箱入五七〇頁

定價三圓八十錢

送料二十二錢

一國産業の基礎をなす勞働
人事を如何に管理すべきか
を心理學的見地より考究せ
る指導的名著として斯界注
目の新文獻！

本書は、我國の産業事情、經營事情、社會事情に對應し、更に物的資源と
並んでその重要性を認められつゝある人的資源對策と關係深き今後の人事
管理に、切實な指導を與へる斯界近來の名著として注目されつゝある。人
事管理の實際を示すに當つては苟くも抽象に流れず、各種の事業、經營、
業務の夫々の特殊性に應じ、其の各々の實證を精細に示し、最も合理的な
る最も進みたる人事管理とは何かを明かにした。又適性考査、雇傭手續、
勞務組織、賃銀、人員統率、産業教育、經營參加、勞働養護等々の諸問題
を解説するに當つてもその研究を單に私的産業のみに止めず、凡ゆる公的
業務にまで及び、研究者並びに實務家の必讀すべき參考書である。

日本經濟政策大系

前資源局長官 松井春生著

日本資源政策

最新刊

菊判箱入三三八頁

價 二 圓

送料十八錢

國家と民族の運命をその究極に於て決定するものは、實にその國の資源問題である。こゝに我が國今後の資源政策の根幹を闡明せる最高權威の書出づ！

本書は、工業資源、農業資源、物的資源、人的資源を問はず、一切の資源問題が如何に處理され、如何に運用されるかの根本を明示せるものである。又資源の保育、開發、或は日・滿・支資源の交渉等の現實的資源對策に關しては、先づ一定限界のみに固着し易き從來多種の資源認識を啓蒙して、新に認識すべき幾多の部面を開顯し、或は我が資源政策と總動員法の重要關係を精細に解明せる刻下必携の指導書である。

